
「高等教育機関が求める人材像」に関する実態調査 報告書

平成 27 年 11 月実施

一般財団法人日本生涯学習総合研究所

<https://www.shogai-soken.or.jp/>

《大学院編》

《大学編》

《短期大学編》

《大学院編》

質問 1	大学院生の他大学等からの入学状況	P. 4
質問 2	入学者選抜試験の選抜方法ごとの入学者比率	P. 5
質問 3	平成 27（2015）年度入学者選抜の内容	P. 7
質問 4	入学者選抜試験とアドミッション・ポリシーとのかかわり	P. 9
質問 5	TA（ティーチング・アシスタント）制度	P. 11
質問 6	教育内容	P. 13
質問 7	大学院の学力・能力	P. 18

《大学編》

質問 1	入学者選抜試験における評価方法	P. 22
質問 2	入学後の学生の育成	P. 25
質問 3	教育内容	P. 28
質問 4	平成 27（2015）年度入学者選抜の内容と入学者状況	P. 33
質問 5	入学（予定）者に対する学力測定実施状況	P. 35
質問 6	卒業生の進路先比率	P. 36
質問 7	大学院へ進学する学生の他大学への進学状況	P. 37

《短期大学編》

質問 1	入学者選抜試験における評価方法	P. 39
質問 2	入学後の学生の育成	P. 41
質問 3	教育内容	P. 44
質問 4	平成 27（2015）年度入学者選抜の内容と入学者状況	P. 46
質問 5	入学（予定）者に対する学力測定実施状況	P. 47
質問 6	卒業生の進路先比率	P. 48

調査実施概要

【調査の目的】

現在、多くの高等教育機関においてアドミSSION・ポリシーが策定されていますが、それが入学者選抜にあたっての指針となっているかは、各教育機関によって異なると推察されます。本調査では、多様化した入学者選抜において、アドミSSION・ポリシーがどのように生かされているのかを調査し、具体的な問題点や改善点を浮かび上がらせたいと考えております。併せて、急速に進展するグローバル化に対応した人材育成という観点からの調査項目も加えました。

【調査対象】 全国の大学の大学院研究科と学部、及び短期大学の学科

【調査期間】 平成 27 年 11 月

【その他】

* データクリーニングについて

無効値（選択数指定数超え、選択箇所不明）、明らかに他の回答との矛盾のある回答や、記述内容が択肢に振り分け可能な回答等を、弊財団にて無効扱い・修正している場合があります。

* 母数（N）について

設問内容により無効回答・無回答の扱いが異なるため、設問により母数（N＝●）の数値は異なります。

「高等教育機関が求める人材像」に関する実態調査 報告書〈大学院編〉

1. 実態調査の概要と回答研究科の属性

調査概要

- ・調査実施期日：2015年11月発送、12月2日締切
- ・調査票発送対象：全国の大学院 1868 研究科（専門職大学院、大学院大学を含む）の各研究科長あて

〔図表-1〕

- ・回答数(回答率)：622 研究科 (33.3%)

(同時に大学の学部長、短期大学の学科長を対象とする調査を実施)

図表-1：設置者別発送研究科数

(N=1868)

	設置者	発送数	
1	国立	424	22.7%
2	公立	170	9.1%
3	私立	1238	66.3%
4	その他	36	1.9%

図表-2：設置者別回答研究科数と本分析における比率 (N=622)

() 内は設置者別回収率

	設置者	回答数	(回収率)
1	国立	168	27.0% (39.6%)
2	公立	65	10.5% (38.2%)
3	私立	383	61.6% (30.9%)
4	その他	1	0.2% (2.8%)
設置者無回答		5	0.8% (---)

回答研究科の属性

●設置者別集計〔図表-2〕

設置者別の回答回収率は、国立 39.6%、公立 38.2%、私立 30.9%となった。「その他」の1研究科(株式会社立)は私立に合算した。

●学問系統別集計〔図表-3〕

調査時においては18の学問系統に区分したが、分析の段階でさらに8系統にまとめている。8系統中で回答研究科が最も多かったのは、修士・博士前期課程、博士・博士後期課程ともに「政経法社」だった。次いで、「理工学」と「医歯薬看護」がほぼ同数で続く。

図表-3-1：学問系統別回答研究科数

18系統	修士・博士前期	博士・博士後期	8系統	修士・博士前期	博士・博士後期
1.文学	61 9.8%	41 6.6%	文学・語学	70 11.3%	47 7.6%
2.語学	40 6.4%	24 3.9%			
3.法学・政治学	62 10.0%	33 5.3%	政経法社	188 30.2%	118 19.0%
4.経済・経営・商学	99 15.9%	66 10.6%			
5.社会学	55 8.8%	36 5.8%			
6.国際関係学	32 5.1%	19 3.1%			
7.看護・医療学	72 11.6%	42 6.8%	医歯薬看護	119 19.1%	110 17.7%
8.医・歯学	45 7.2%	52 8.4%			
9.薬学	22 3.5%	27 4.3%			
10.理学	48 7.7%	40 6.4%	理工学	123 19.8%	111 17.8%
11.工学	82 13.2%	74 11.9%			
12.農・水産学	27 4.3%	26 4.2%			
13.教員養成・教育学	53 8.5%	11 1.8%	教育・心理	89 14.3%	29 4.7%
14.心理学	49 7.9%	22 3.5%			
15.生活科学	18 2.9%	13 2.1%	生活	18 2.9%	13 2.1%
16.芸術	25 4.0%	16 2.6%	芸術・体育	38 6.1%	13 3.9%
17.体育・健康科学	15 2.4%	9 1.4%			
18.その他	78 12.5%	59 9.5%	その他	78 12.5%	59 9.5%

専門職大学院

1.ビジネス・MOT	10	17.9%
2.会計	3	5.4%
3.公共政策	3	5.4%
4.公衆衛生	1	1.8%
5.知的財産	1	1.8%
6.臨床心理	0	0.0%
7.法科大学院	22	39.3%
8.教職大学院	17	30.4%
9.その他	2	3.6%

図表-3-2：大学院の課程別回答数

	全研究科数	修士・博士前期	博士・博士後期	専門職
全体	622	586	415	56
国立	168	156	118	25
公立	65	64	50	3
私立	384	361	242	28
不明	5	5	5	0

2. 各質問の集計結果と結果分析

質問1：入学者について

質問1-1：修士・博士前期課程、専門職学位課程への入学者（複数選択）〔図表-4、5〕

- ・学内からの入学者が半数以上である研究科が54.2%、他大学からの入学者が半数以上である研究科が37.4%、学内外からの入学者がほぼ同数である研究科が8.5%であった。
- ・「4. 異なる専攻分野からの入学者もいる」が34.1%、「5. 海外からの入学者もいる」は47.8%と半数近い。
- ・設置区分ごとに比較すると、国立が、「4. 異なる専攻分野からの入学者もいる」で39.1%、「5. 海外からの入学者もいる」が66.2%と他に比べて高くなっている。
- ・系統別では、政経法社系のみ他大学からの入学者が半数を上回る研究科が半分を超えている。一方で、理工学系は大学内からの入学者が半数以上の学校がほとんどである。

図表-4-1：修士・博士前期課程、専門職学位への入学者《学内・学外からの入学者比率》（全体・設置者別）

	全体 N=554	国立 N=146	公立 N=59	私立 N=344
1. 大学内からの入学者が半数以上、他大学からの入学者は半数未満	54.2%	55.5%	54.2%	53.5%
2. 他大学からの入学者が半数以上、大学内からの入学者は半数未満	37.4%	37.0%	37.3%	37.5%
3. 大学内からの入学者と、他大学からの入学者はほぼ同数	8.5%	7.5%	8.5%	9.0%

図表-4-2：修士・博士前期課程、専門職学位への入学者《他分野や海外からの入学者》（全体・設置者別）

	全体 N=558	国立 N=151	公立 N=60	私立 N=342
4. 異なる専攻分野からの入学者もいる	34.1%	39.1%	18.3%	34.8%
5. 海外からの入学者もいる	47.8%	66.2%	41.7%	40.9%
無回答	40.1%	25.8%	50.0%	44.7%

図表-5-1：修士・博士前期課程、専門職学位への入学者《学内・学外からの入学者比率》（系統別）

	文学・語学 N=68	政経法社 N=177	医歯薬看護 N=93	理工学 N=116	教育・心理 N=84	生活 N=18	芸術・体育 N=36
1. 大学内からの入学者が半数以上、他大学からの入学者は半数未満	54.4%	32.8%	44.1%	87.9%	54.8%	72.2%	86.1%
2. 他大学からの入学者が半数以上、大学内からの入学者は半数未満	38.2%	60.5%	41.9%	9.5%	33.3%	22.2%	5.6%
3. 大学内からの入学者と、他大学からの入学者はほぼ同数	7.4%	6.8%	14.0%	2.6%	11.9%	5.6%	8.3%

図表-5-2：修士・博士前期課程、専門職学位への入学者《他分野や海外からの入学者》（系統別）

	文学・語学 N=68	政経法社 N=184	医歯薬看護 N=99	理工学 N=121	教育・心理 N=85	生活 N=18	芸術・体育 N=38
4. 異なる専攻分野からの入学者もいる	32.4%	40.8%	30.3%	20.7%	41.2%	27.8%	36.8%
5. 海外からの入学者もいる	45.6%	50.5%	37.4%	59.5%	34.1%	27.8%	47.4%
無回答	39.7%	36.4%	51.5%	37.2%	43.5%	55.6%	31.6%

質問 1-2：博士・博士後期課程への入学者（複数選択）〔図表-6、7〕

- ・「1. 同一大学院から半数以上、他大学院から半数未満」（71.8%）と「2. 他大学院から半数以上、同一大学院から半数未満」（17.4%）の差は大きく、約 16 ポイント差であった修士課程と比較しても前者の比率が高い。
- ・「4. 異なる専門分野からの入学者もいる」は 21.3%で、修士課程に比べて 12.8 ポイント低い、海外からの入学者の比率に大きな差はない。

図表-6-1：博士・博士後期課程、専門職学位への入学者《学内・学外からの入学者比率》（全体・設置者別）

	全体 N=379	国立 N=106	公立 N=44	私立 N=224
1. 大学内からの入学者が半数以上、他大学からの入学者は半数未満	71.8%	61.3%	65.9%	78.1%
2. 他大学からの入学者が半数以上、大学内からの入学者は半数未満	17.4%	21.7%	22.7%	14.3%
3. 大学内からの入学者と、他大学からの入学者はほぼ同数	10.8%	17.0%	11.4%	7.6%

図表-6-2：博士・博士後期課程、専門職学位への入学者《他分野や海外からの入学者》（全体・設置者別）

	全体 N=400	国立 N=118	公立 N=46	私立 N=231
4. 異なる専攻分野からの入学者もいる	21.3%	35.6%	17.4%	14.7%
5. 海外からの入学者もいる	46.5%	71.2%	47.8%	34.2%
無回答	46.5%	23.7%	45.7%	58.0%

図表-7-1：博士・博士後期課程、専門職学位への入学者《学内・学外からの入学者比率》（系統別）

	文学・語学 N=46	政経法社 N=112	医歯薬看護 N=84	理工学 N=97	教育・心理 N=28	生活 N=14	芸術・体育 N=24
1. 大学内からの入学者が半数以上、他大学からの入学者は半数未満	87.0%	72.3%	72.6%	61.9%	75.0%	85.7%	70.8%
2. 他大学からの入学者が半数以上、大学内からの入学者は半数未満	6.5%	19.6%	15.5%	22.7%	21.4%	7.1%	12.5%
3. 大学内からの入学者と、他大学からの入学者はほぼ同数	6.5%	8.0%	11.9%	15.5%	3.6%	7.1%	16.7%

図表-7-2：博士・博士後期課程、専門職学位への入学者《他分野や海外からの入学者》（系統別）

	文学・語学 N=46	政経法社 N=114	医歯薬看護 N=95	理工学 N=105	教育・心理 N=28	生活 N=12	芸術・体育 N=24
4. 異なる専攻分野からの入学者もいる	15.2%	19.3%	30.5%	21.0%	28.6%	33.3%	12.5%
5. 海外からの入学者もいる	43.5%	36.8%	45.3%	61.0%	39.3%	41.7%	58.3%
無回答	47.8%	53.5%	47.4%	34.3%	50.0%	41.7%	37.5%

質問 2：選抜方法ごとの入学者の比率（単一選択）

◆修士・博士前期（一貫制博士課程含む）〔図表-8〕

- ・一般入試による入学者比率が 3/4 以上である学校が半数近い。主流の選抜方法は一般入試である。
- ・外国人留学生特別選抜や社会人特別選抜も、受け入れ数こそ小さいが活用されている。
- ・学部入試と比較すると、入試形態の多様化は進んでいない。
- ・私立では、一般入試以外のさまざまな入試方式が幅広く取り入れられている。

図表-8：選抜方法ごとの入学者比率／修士・博士前期（一貫制博士課程含む）（全体・設置者別）

一般入試	全体 N=549	国立 N=148	公立 N=63	私立 N=333	推薦入試	全体 N=550	国立 N=148	公立 N=63	私立 N=334
75%以上	47.2%	61.5%	65.1%	37.5%	75%以上	3.5%	0.0%	0.0%	5.7%
50%～75%未満	16.0%	17.6%	14.3%	15.6%	50%～75%未満	4.9%	1.4%	3.2%	6.9%
25%～50%未満	16.2%	13.5%	15.9%	17.4%	25%～50%未満	9.6%	8.8%	3.2%	11.1%
5%～25%未満	11.3%	4.7%	3.2%	15.6%	5%～25%未満	11.3%	13.5%	1.6%	12.0%
5%未満	9.3%	2.7%	1.6%	13.8%	5%未満	70.7%	76.4%	92.1%	64.4%

AO 入試	全体 N=550	国立 N=148	公立 N=63	私立 N=334	外国人留学生 特別選抜	全体 N=549	国立 N=148	公立 N=63	私立 N=333
75%以上	0.4%	0.0%	0.0%	0.6%	75%以上	2.7%	0.7%	0.0%	4.2%
50%～75%未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50%～75%未満	4.9%	4.1%	1.6%	6.0%
25%～50%未満	0.9%	0.0%	0.0%	1.5%	25%～50%未満	5.1%	6.8%	3.2%	4.8%
5%～25%未満	0.7%	0.7%	0.0%	0.9%	5%～25%未満	13.5%	27.0%	6.3%	9.0%
5%未満	98.0%	99.3%	100.0%	97.0%	5%未満	73.8%	61.5%	88.9%	76.0%

社会人特別選抜	全体 N=550	国立 N=148	公立 N=63	私立 N=334
75%以上	7.6%	2.0%	4.8%	10.5%
50%～75%未満	4.4%	4.1%	11.1%	3.3%
25%～50%未満	8.2%	6.8%	7.9%	9.0%
5%～25%未満	14.9%	16.9%	9.5%	15.3%
5%未満	64.9%	70.3%	66.7%	62.0%

◆博士・博士後期〔図表-9〕

- ・一般入試による入学者比率が高く、それ以外の入試方法による入学者比率は修士課程と比べてもさらに低い。

図表-9：選抜方法ごとの入学者比率／博士・博士後期（一貫制博士課程含む）（全体・設置者別）

一般入試	全体 N=396	国立 N=115	公立 N=49	私立 N=228	推薦入試	全体 N=396	国立 N=115	公立 N=49	私立 N=228
75%以上	57.1%	34.8%	75.5%	64.0%	75%以上	1.3%	0.9%	0.0%	1.8%
50%～75%未満	13.1%	20.9%	12.2%	9.6%	50%～75%未満	1.3%	0.9%	0.0%	1.8%
25%～50%未満	11.6%	21.7%	4.1%	8.3%	25%～50%未満	2.0%	3.5%	0.0%	1.8%
5%～25%未満	6.1%	7.8%	4.1%	5.7%	5%～25%未満	3.3%	1.7%	0.0%	4.8%
5%未満	12.1%	14.8%	4.1%	12.3%	5%未満	92.2%	93.0%	100.0%	89.9%

AO 入試	全体 N=396	国立 N=115	公立 N=49	私立 N=228	外国人留学生特別 選抜	全体 N=396	国立 N=115	公立 N=49	私立 N=228
75%以上	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	75%以上	2.3%	0.0%	2.0%	3.5%
50%～75%未満	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	50%～75%未満	2.0%	2.6%	2.0%	1.8%
25%～50%未満	0.3%	0.9%	0.0%	0.0%	25%～50%未満	8.3%	19.1%	6.1%	3.5%
5%～25%未満	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%	5%～25%未満	12.1%	22.6%	8.2%	7.9%
5%未満	99.0%	99.1%	100.0%	98.7%	5%未満	75.3%	55.7%	81.6%	83.3%

社会人特別選抜	全体 N=396	国立 N=115	公立 N=49	私立 N=228
75%以上	6.1%	5.2%	2.0%	7.0%
50%～75%未満	6.1%	9.6%	4.1%	4.8%
25%～50%未満	11.1%	19.1%	8.2%	7.9%
5%～25%未満	10.9%	18.3%	12.2%	7.0%
5%未満	65.9%	47.8%	73.5%	73.2%

◆専門職学位〔図表-10〕

- ・一般入試による入学者比率が圧倒的に高い。
- ・社会人特別選抜による入学者は、多くはないが一定の率を占める。

図表-10：選抜方法ごとの入学者比率／専門職学位（全体）

専門職学位 N=52	一般入試	推薦入試	AO入試	外国人留学生特別選抜	社会人特別選抜
75%以上	57.7%	0.0%	0.0%	0.0%	3.8%
50%～75%未満	13.5%	3.8%	0.0%	0.0%	5.8%
25%～50%未満	13.5%	1.9%	1.9%	3.8%	5.8%
5%～25%未満	7.7%	9.6%	0.0%	3.8%	9.6%
5%未満	7.7%	84.6%	98.1%	92.3%	75.0%

質問3：H27年度入試の内容について

質問3-1：選抜方法ごとの評価方法について（複数選択）

◆修士・博士前期（一貫制博士課程含む）〔図表-11〕

- ・すべての入試方式で、「1.書類選考・資格審査」「2.面接・口頭試問」の2つの評価方法が用いられている。「3.筆記試験」も、一般入試での94.5%をはじめ、高い比率で実施されている。
- ・「4.公的・民間の資格試験活用」は、外国人留学生特別選抜で25%を超えているが、それ以外の入試方式ではあまり用いられていない。
- ・「5.その他」に該当する入試方式では、小論文、実技試験の実施がされていた。
- ・国立では、「4.公的・民間の資格試験活用」の率が公私立に比べて高い。

図表-11：選抜方法ごとの評価方法／修士・博士前期（一貫博士課程含む）

	一般入試				推薦入試			
	全体 N=547	国立 N=149	公立 N=64	私立 N=329	全体 N=219	国立 N=44	公立 N=14	私立 N=158
1.書類選考・資格審査	77.0%	71.8%	76.6%	79.9%	84.0%	72.7%	78.6%	88.0%
2.面接・口頭試問	97.4%	97.3%	98.4%	97.3%	92.2%	88.6%	100.0%	93.0%
3.筆記試験	94.5%	91.3%	95.3%	95.7%	16.0%	13.6%	21.4%	15.8%
4.公的・民間の資格試験活用	19.9%	40.3%	18.8%	11.2%	15.1%	31.8%	21.4%	9.5%
5.その他	5.3%	6.7%	12.5%	3.3%	2.3%	4.5%	0.0%	1.9%

	AO入試				外国人留学生特別選抜			
	全体 N=16	国立 N=3	公立 N=0	私立 N=13	全体 N=269	国立 N=96	公立 N=26	私立 N=146
1.書類選考・資格審査	68.8%	33.3%	—	76.9%	83.3%	78.1%	84.6%	87.0%
2.面接・口頭試問	93.8%	66.7%	—	100.0%	90.0%	85.4%	92.3%	92.5%
3.筆記試験	50.0%	33.3%	—	53.8%	72.1%	64.6%	73.1%	76.7%
4.公的・民間の資格試験活用	6.3%	33.3%	—	0.0%	25.3%	35.4%	30.8%	17.8%
5.その他	6.3%	33.3%	—	0.0%	5.2%	7.3%	3.8%	4.1%

	社会人特別選抜				その他			
	全体 N=345	国立 N=93	公立 N=32	私立 N=216	全体 N=61	国立 N=26	公立 N=5	私立 N=30
1.書類選考・資格審査	78.8%	73.1%	78.1%	81.9%	88.5%	88.5%	100.0%	86.7%
2.面接・口頭試問	94.8%	96.8%	96.9%	94.0%	83.6%	80.8%	60.0%	90.0%
3.筆記試験	65.8%	62.4%	84.4%	64.4%	41.0%	42.3%	0.0%	46.7%
4.公的・民間の資格試験活用	14.5%	26.9%	12.5%	9.7%	26.2%	38.5%	0.0%	20.0%
5.その他	4.3%	6.5%	9.4%	2.8%	13.1%	15.4%	40.0%	6.7%

◆博士・博士後期〔図表-12〕

- ・「2. 面接・口頭試問」がすべての入試方式で特によく用いられている。
- ・社会人特別選抜で筆記試験が多く用いられている一方で、推薦入試では筆記試験があまり課されないようである。

図表-12：選抜方法ごとの評価方法／修士・博士後期（全体・設置者別）

<備考>A0 入試はデータ数が少ないので省略

	一般入試				推薦入試			
	全体 N=397	国立 N=115	公立 N=49	私立 N=228	全体 N=44	国立 N=13	公立 N=1	私立 N=30
1.書類選考・資格審査	78.3%	78.3%	81.6%	78.5%	79.5%	69.2%	100.0%	83.3%
2.面接・口頭試問	98.2%	98.3%	98.0%	98.2%	81.8%	46.2%	100.0%	96.7%
3.筆記試験	77.8%	65.2%	61.2%	87.7%	11.4%	0.0%	0.0%	16.7%
4.公的・民間の資格試験活用	11.1%	19.1%	14.3%	6.6%	2.3%	7.7%	0.0%	0.0%
5.その他	5.3%	2.6%	14.3%	4.4%	6.8%	7.7%	0.0%	6.7%
	外国人留学生特別選抜				社会人特別選抜			
	全体 N=171	国立 N=71	公立 N=17	私立 N=82	全体 N=52	国立 N=77	公立 N=20	私立 N=89
1.書類選考・資格審査	84.8%	85.9%	82.4%	85.4%	73.1%	76.6%	85.0%	82.0%
2.面接・口頭試問	89.5%	81.7%	100.0%	93.9%	84.6%	97.4%	100.0%	98.9%
3.筆記試験	53.2%	38.0%	29.4%	70.7%	84.6%	45.5%	35.0%	70.8%
4.公的・民間の資格試験活用	14.6%	19.7%	17.6%	9.8%	25.0%	14.3%	10.0%	7.9%
5.その他	5.8%	2.8%	11.8%	6.1%	7.7%	1.3%	15.0%	3.4%
	その他							
	全体 N=34	国立 N=26	公立 N=1	私立 N=6				
1.書類選考・資格審査	70.6%	84.6%	0.0%	16.7%				
2.面接・口頭試問	64.7%	69.2%	0.0%	66.7%				
3.筆記試験	23.5%	19.2%	0.0%	50.0%				
4.公的・民間の資格試験活用	11.8%	11.5%	0.0%	16.7%				
5.その他	8.8%	3.8%	100.0%	16.7%				

◆専門職学位〔図表-13〕

- ・一般入試においては、書類審査、面接、筆記試験の3つが主に活用されている。

図表-13：選抜方法ごとの評価方法／専門職学位（全体）

	一般入試	推薦入試	社会人特別選抜
	全体 N=52	全体 N=12	全体 N=21
1.書類選考・資格審査	73.1%	58.3%	66.7%
2.面接・口頭試問	84.6%	91.7%	90.5%
3.筆記試験	84.6%	33.3%	61.9%
4.公的・民間の資格試験活用	25.0%	8.3%	14.3%
5.その他	7.7%	0.0%	9.5%

質問 3-2：選抜方法ごとの評価方法について（質問 3-1）で、「4. 公的・民間資格試験の活用」の選択者に対して、その資格試験名（記述回答）

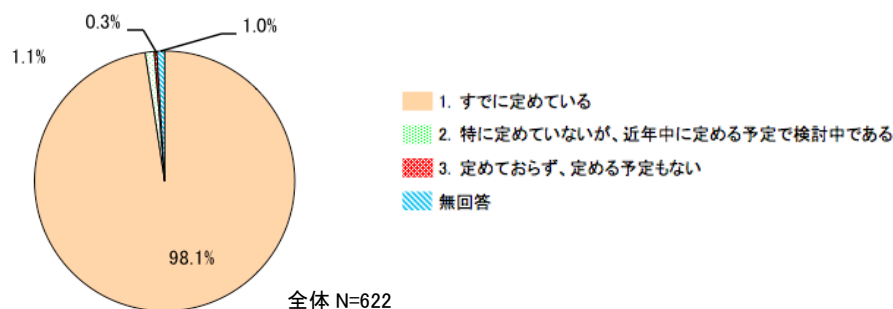
- ・ほとんどが英語を中心とする語学系の資格試験をあげている。中でも、「TOEIC」「TOEFL」の両者が圧倒的に多い。「IELTS」や「英検」も見られた。
- ・外国人留学生のための「日本語能力試験」、法科大学院生のための「法科大学院全国統一適性試験」もあげられていた。

質問 4：入学者選抜試験とアドミッション・ポリシーについて

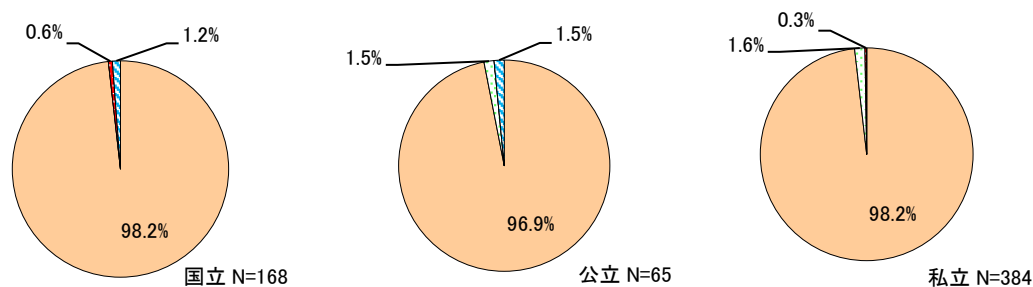
質問 4-1：研究科でアドミッション・ポリシーを定めているか（単一選択）〔図表-14、15〕

- ・ほぼすべての研究科（98.1%）でアドミッション・ポリシーを定めている。

図表-14：研究科でアドミッション・ポリシーを定めているか（全体）



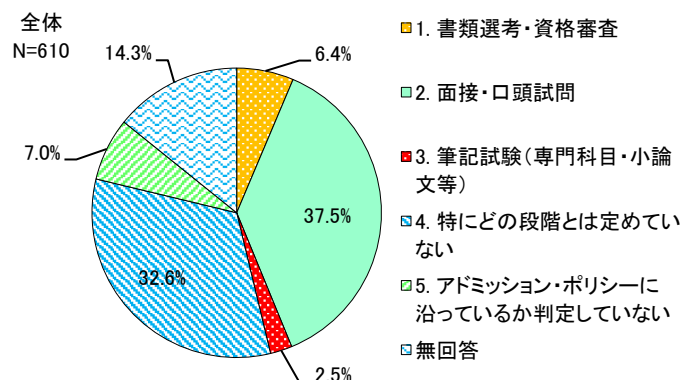
図表-15：研究科でアドミッション・ポリシーを定めているか（設置者別）



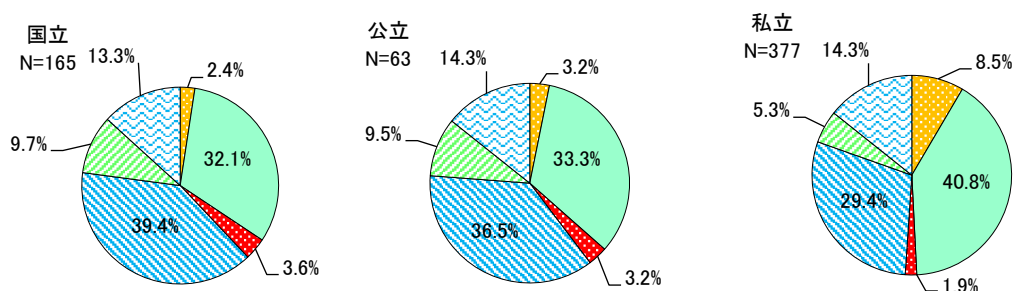
質問 4-2：アドミッション・ポリシーを定めているか（質問 4-1）で、「1. すでに定めている」の選択者に対して、研究科の入学者選抜試験で受験者がアドミッション・ポリシーに沿っているかどうかの判定は、主としてどの段階で行うか（単一選択）〔図表-16、17〕

- ・「2. 面接・口頭試問」の段階での判断が 37.5%と最多となっている。
- ・国公立は「4. 特にどの段階とは定めていない」が最多となっているが、私立では面接時に判断している比率が高くなっている。

図表-16：受験者がアドミッション・ポリシーに沿っているか判定する段階（全体）



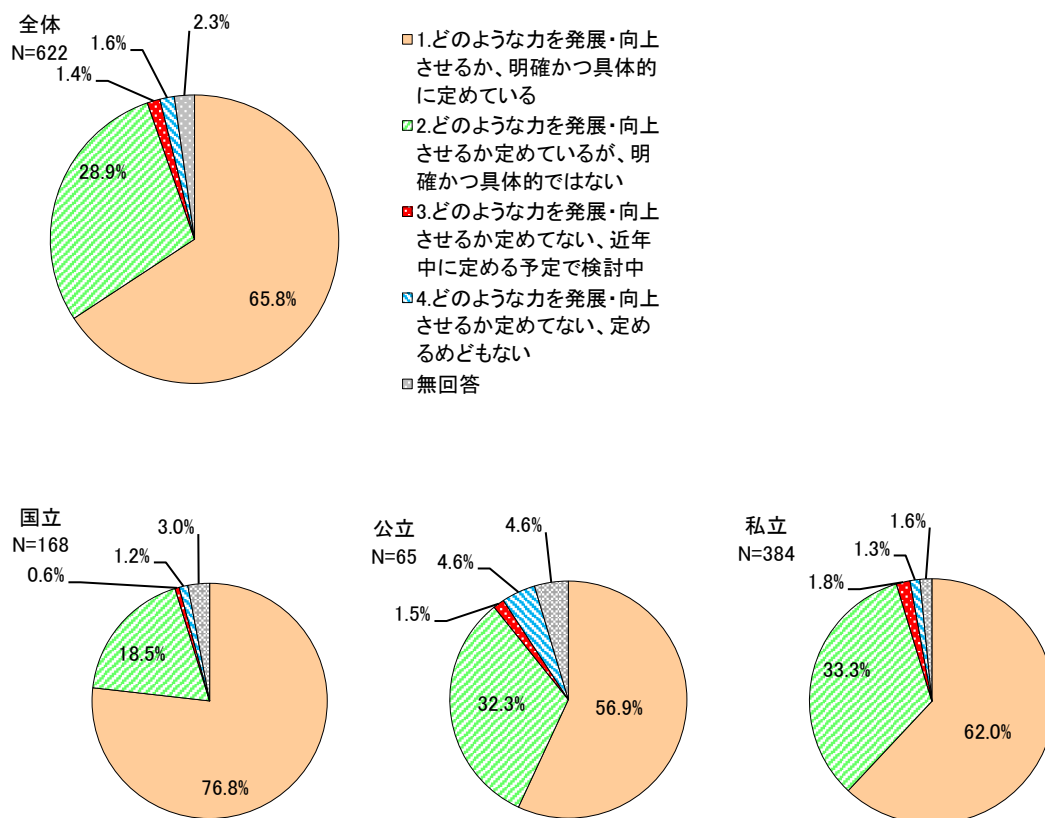
図表-17：受験者がアドミッション・ポリシーに沿っているか判定する段階（設置者別）



質問 4-3：大学院での教育を通じて、発展・向上させる能力について定めているか
〔単一選択〕〔図表-18〕

- ・95%近くの研究科でどのような力を発展・向上させるか定めている。
- ・具体性については、国立で76.8%と高く、私立で62.0%、公立で56.9%となっている。

図表-18：大学院での教育を通じて、発展・向上させるべき能力を定めているか（全体・設置者別）



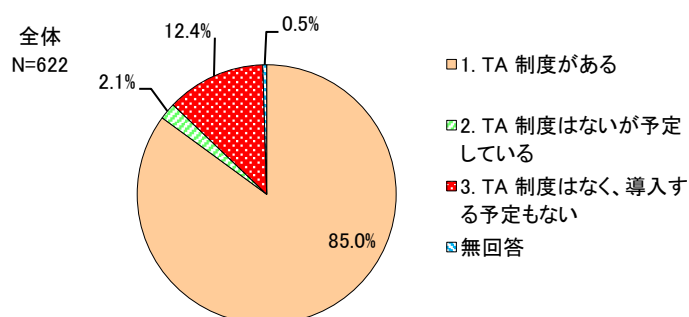
質問 5 : TA (ティーチング・アシスタント) 制度について

大学院生は、将来的に教育や研究の指導者になる可能性があるため、TA 制度を有用な人材育成システムとして位置付けているかを質問した。

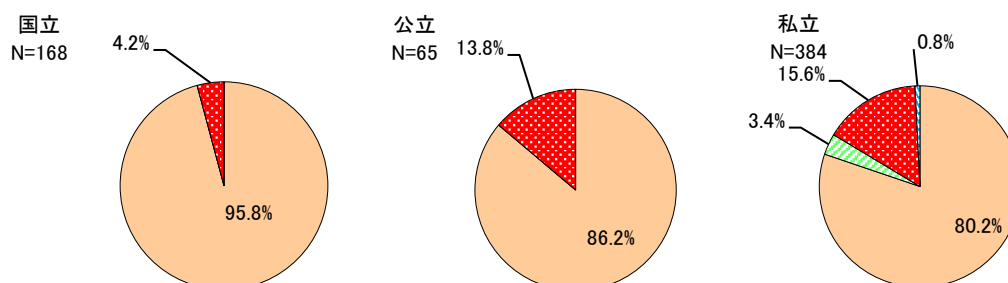
質問 5-1 : TA 制度の有無について (単一選択) [図表-19、20]

- ・ほとんどの研究科で TA 制度を設けている。
- ・現在 TA 制度を導入していない研究科(14.5%) では、今後の導入も予定していない研究科がほとんどである。
- ・設置者別にみると、国立での設置が 95%を超えており、制度の導入がかなり進んでいると言える。

図表-19 : TA 制度の有無 (全体)



図表-20 : TA 制度の有無 (設置者別)



質問 5-2-1 : TA 制度の (質問 5-1) で、「1. TA 制度がある」の選択者に対して、TA が携わっている業務の内容について (複数選択) [図表-21]

- ・「1. 授業進行の補助 (資料配布、授業環境維持、試験監督等)」と、「2. 授業準備の補助 (出席管理、資料印刷等)」がその主な業務内容になっている。
- ・「4. TA による学生指導 (学生への助言、サブゼミの実施等)」と「3. 担当教授の学生指導補助 (ゼミ・卒論指導補助、成績評価補助等)」の業務も半数ほどの研究科で行っている。

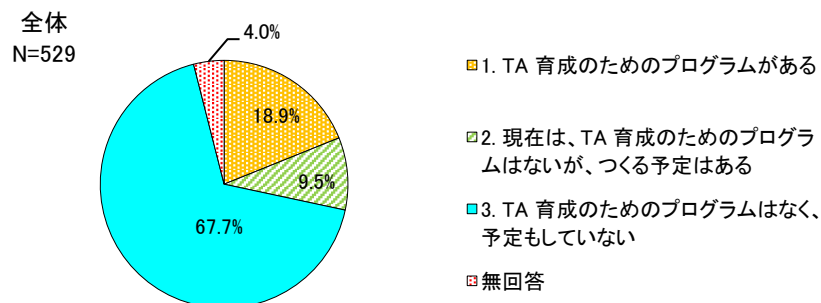
図表-21：TAの業務内容（全体・設置者別）

N=質問5-1で、「1.TA 制度がある」 の回答者数	全体 N=529	国立 N=161	公立 N=56	私立 N=308
1. 授業進行の補助(資料配布、授業環境維持、試験監督等)	87.5%	95.0%	87.5%	83.4%
2. 授業準備の補助(出席管理、資料印刷等)	72.8%	85.1%	76.8%	65.3%
3. 担当教授の学生指導補助(ゼミ・卒業指導補助、成績評価補助等)	43.1%	46.0%	46.4%	40.3%
4. TAによる学生指導(学生への助言、サブゼミの実施等)	45.0%	43.5%	48.2%	45.5%
5. 大学学事補助(学生支援室等勤務、教材開発補助等)	5.9%	7.5%	5.4%	4.9%
6. その他	4.3%	1.9%	8.9%	4.9%
無回答	18.1%	5.6%	16.1%	25.0%

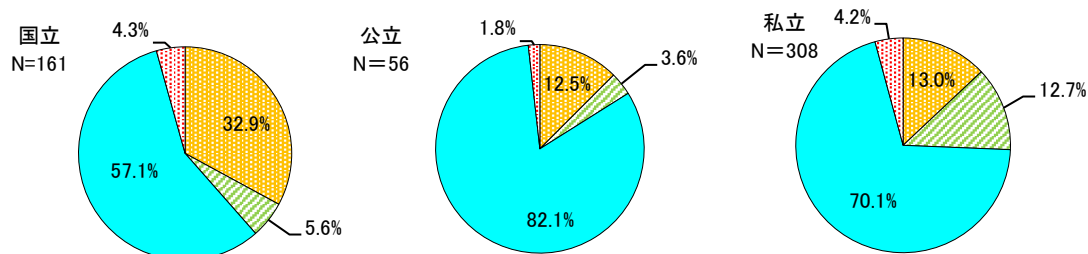
質問 5-2-2：TA 制度の有無（質問 5-1）で、「1.TA 制度がある」の選択者に対して、TA 育成のためのプログラムの有無について（単一選択）〔図表-22、23〕

- ・TA 育成のためのプログラムへの関心は低く、制度があってもその運用による TA の育成にはあまり力がいれられていない。
- ・ただし設置者別に見ると、国立が公私立よりも、TA 育成のためのプログラム設置を計画的に進めていると言える。

図表-22：TA 育成プログラムの有無（全体）



図表-23：TA 育成プログラムの有無（設置者別）



質問 5-2-3：TA 育成のためのプログラムがあるか（質問 5-2-2）で、「1. プログラムがある」と回答した者に対して、TA 育成のために実施しているプログラムについて（複数選択）〔図表-24〕

- ・「2. ガイダンスの実施」が最も実施されており、「4. 担当教授による個別指導」「1. ハンドブックの配布」が続く。

図表-24：TA 育成の実施プログラム（全体・設置者別）

N=質問5-2-2で、「1.TA 育成のためのプログラムがある」の回答者	全体 N=100	国立 N=53	公立 N=7	私立 N=40
1. ハンドブックの配布	36.0%	35.8%	28.6%	37.5%
2. ガイダンスの実施	71.0%	73.6%	71.4%	67.5%
3. 担当教授によるTA のグループディスカッションの定期的実施	3.0%	0.0%	14.3%	5.0%
4. 担当教授による個別指導	43.0%	43.4%	71.4%	37.5%
5. その他	6.0%	7.5%	0.0%	5.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 6：研究科における教育内容について

<備考>質問 6 については、大学学部、短大学科、企業にも同様の質問をしている。

また、大学学部と企業については比較分析も行っているの、それぞれの報告書も参照してほしい。

質問 6-1：研究科での教育システムについて（複数選択）〔図表-25、26〕

- ・大学院生の自主性を尊重した授業の実践がなされている。「1. 教員と大学院生との間で質疑や議論がなされる授業を積極的に実践」が 90%近い一方で、「3. 勉強に精を出さねば修了できない厳しいカリキュラムを実践」は少ない。
- ・大学院生同士の議論を重視するかは系統によって開きが見られる。また、「5. グローバルな視点から学ぶ意識を持たせるカリキュラムの実践」は、理工学系だけが 5 割を超える。

図表-25：研究科での教育システム（全体・設置者別）

	全体 N=616	国立 N=165	公立 N=64	私立 N=382
1. 教員と大学院生との間で質疑や議論がなされる授業を積極的に実践	88.0%	87.9%	87.5%	88.5%
2. 大学院生同士の議論が頻繁に積極的になされるような授業の工夫	57.6%	64.2%	50.0%	56.8%
3. 勉強に精を出さねば修了できない、厳しいカリキュラムを実践	24.0%	27.3%	20.3%	23.6%
4. 大学院生の思考力、人間性、意欲、視野の広さなどを伸ばすカリキュラムを実践	64.4%	67.9%	70.3%	62.0%
5. グローバルな視点から学ぶ意識を持たせるカリキュラムを実践	44.2%	60.0%	50.0%	36.4%
無回答	3.1%	4.2%	3.1%	2.6%

図表-26：研究科での教育システム（系統別）

	文学・語学 N=80	政経法社 N=198	医歯薬看護 N=128	理工学 N=137	教育・心理 N=94	生活 N=26	芸術・体育 N=39
1. 教員と大学院生との間で質疑や議論がなされる授業を積極的に実践	86.3%	91.4%	79.7%	85.4%	93.6%	96.2%	87.2%
2. 大学院生同士の議論が頻繁に積極的になされるような授業の工夫	60.0%	59.6%	47.7%	55.5%	76.6%	38.5%	66.7%
3. 勉強に精を出さねば修了できない、厳しいカリキュラムを実践	27.5%	28.3%	14.8%	24.1%	19.1%	15.4%	25.6%
4. 大学院生の思考力、人間性、意欲、視野の広さなどを伸ばすカリキュラムを実践	66.3%	59.1%	66.4%	67.9%	67.0%	65.4%	66.7%
5. グローバルな視点から学ぶ意識を持たせるカリキュラムを実践	48.8%	42.4%	46.9%	57.7%	29.8%	42.3%	43.6%
無回答	2.5%	2.5%	6.3%	3.6%	1.1%	0.0%	2.6%

質問 6-2：研究科での教育内容について（複数選択）〔図表-27、28〕

- ・同時に行った大学対象調査の質問 2-1 でも、「入学時点で不足しており、入学後に培うべき能力」として論理的思考力の発展・向上が重要であると指摘されたが、大学院においても「2. 論理的思考力を高めるためのトレーニングを实践」が 64.6%で最多となっている。
- ・「3. 外国語専攻以外の大学院生対象に外国語によるコミュニケーション能力養成の支援を实践」は、設置者により差異が見られた。国立が 41.8%と高い一方で、私立は 17.3%にとどまっている。系統別に見ても、理工学系のみが 4 割を超えている。

図表-27：研究科での教育内容（全体・設置者別）

	全体 N=616	国立 N=165	公立 N=64	私立 N=382
1. 教養教育の拡充による幅広い視野や基礎的思考力の養成を实践	46.1%	44.2%	50.0%	46.3%
2. 論理的思考力を高めるためのトレーニングを实践	64.6%	68.5%	65.6%	62.8%
3. 外国語専攻以外の大学院生対象に外国語によるコミュニケーション能力養成の支援を实践	25.2%	41.8%	29.7%	17.3%
4. 正規のカリキュラム以外に、実務で不可欠な技能の養成講座を提供	16.1%	17.0%	14.1%	16.2%
無回答	13.8%	13.3%	14.1%	13.9%

図表-28：研究科での教育内容（系統別）

	文学・語学 N=80	政経法社 N=198	医歯薬看護 N=128	理工学 N=137	教育・心理 N=94	生活 N=26	芸術・体育 N=39
1. 教養教育の拡充による幅広い視野や基礎的思考力の養成を实践	57.5%	47.0%	45.3%	45.3%	54.3%	46.2%	43.6%
2. 論理的思考力を高めるためのトレーニングを实践	60.0%	65.2%	59.4%	64.2%	68.1%	65.4%	56.4%
3. 外国語専攻以外の大学院生対象に外国語によるコミュニケーション能力養成の支援を实践	23.8%	19.7%	23.4%	43.8%	13.8%	34.6%	17.9%
4. 正規のカリキュラム以外に、実務で不可欠な技能の養成講座を提供	17.5%	11.6%	17.2%	10.9%	17.0%	23.1%	17.9%
無回答	10.0%	15.7%	17.2%	14.6%	11.7%	0.0%	15.4%

質問 6-3：大学院生が実社会を知るための大学院の取り組みについて（複数選択）

〔図表-29、30〕

- ・全体的に、4 つの選択肢がまんべんなく取り組まれている。国公立では、「3. 企業・官公庁等の幹部・実務者を講師として招聘し実務を知るチャンスを増大」の比率が高く、力を入れて取り組まれているようだ。

図表-29：院生が実社会を知るために、大学院として取り組んでいるもの（全体・設置者別）

	全体 N=616	国立 N=165	公立 N=64	私立 N=382
1. 大学院生の国内でのインターンシップを促進	34.6%	54.5%	23.4%	28.0%
2. 大学院生のボランティア活動や地域活動への参画を促進	21.6%	21.8%	20.3%	22.0%
3. 企業・官公庁等の幹部・実務者を講師として招聘し実務を知るチャンスを増大	38.1%	58.2%	37.5%	29.8%
4. 企業・官公庁等の現場の見学などによる実務者との交流の機会を増大	21.9%	26.1%	18.8%	20.9%
無回答	36.2%	18.8%	43.8%	41.6%

図表-30：院生が実社会を知るために、大学院として取り組んでいるもの（系統別）

	文学・語学 N=80	政経法社 N=198	医歯薬看護 N=128	理工学 N=137	教育・心理 N=94	生活 N=26	芸術・体育 N=39
1. 大学院生の国内でのインターンシップを促進	21.3%	30.3%	18.8%	62.0%	27.7%	38.5%	30.8%
2. 大学院生のボランティア活動や地域活動への参画を促進	23.8%	16.7%	11.7%	20.4%	37.2%	30.8%	28.2%
3. 企業・官公庁等の幹部・実務者を講師として招聘し実務を知るチャンスを増大	23.8%	39.9%	28.1%	57.7%	23.4%	23.1%	33.3%
4. 企業・官公庁等の現場の見学などによる実務者との交流の機会を増大	12.5%	20.7%	13.3%	25.5%	23.4%	15.4%	20.5%
無回答	55.0%	38.9%	52.3%	16.8%	37.2%	38.5%	35.9%

質問 6-4：外国語教育への取り組みについて（複数選択）〔図表-31、32〕

- ・外国語で論文を読めるようにすることが、最も重要であると考えられている。以下、論文執筆、発表、討論の順で取り組みがなされている。
- ・理工学系、医歯薬看護系で熱心な取り組みが見られる。

図表-31：外国語教育への取り組みについて（全体・設置者別）

	全体 N=616	国立 N=165	公立 N=64	私立 N=382
1. 外国語で論文を読めるようにする	65.9%	71.5%	78.1%	62.6%
2. 外国語で論文を書けるようにする	36.2%	57.0%	45.3%	25.9%
3. 外国語プレゼンテーションを行えるようにする	34.2%	57.0%	40.6%	23.6%
4. 外国語でディスカッションができるようにする	22.3%	41.8%	23.4%	13.9%
無回答	28.0%	21.2%	20.3%	32.5%

図表-32：外国語教育への取り組みについて（系統別）

	文学・語学 N=80	政経法社 N=198	医歯薬看護 N=128	理工学 N=137	教育・心理 N=94	生活 N=26	芸術・体育 N=39
1. 外国語で論文を読めるようにする	63.8%	57.1%	81.3%	78.8%	67.0%	73.1%	59.0%
2. 外国語で論文を書けるようにする	35.0%	18.2%	53.9%	63.5%	22.3%	42.3%	25.6%
3. 外国語プレゼンテーションを行えるようにする	30.0%	21.2%	40.6%	64.2%	24.5%	30.8%	33.3%
4. 外国語でディスカッションができるようにする	22.5%	14.6%	28.1%	40.1%	18.1%	15.4%	12.8%
無回答	30.0%	39.9%	14.8%	12.4%	28.7%	23.1%	35.9%

質問 6-5：留学生への対応について（複数選択）〔図表-33、34〕

- ・設置者ごとに傾向が異なる。国立では、各項目の選択率が 40%台を中心としてまんべんなく高く、公立も項目間の差が小さいが低率である。一方、私立は経済的補助制度の導入に特化して力を入れているようである。
- ・特に国立は、「2. 受け入れ留学生に対する日本人大学院生のメンター制度を導入」や「4. 外国語で履修できる科目を提供」で公私立よりもしっかりとした取り組みが見られる。留学生が生活しやすい環境を整える努力がなされているといえる。
- ・理工学系がいずれの項目でも高い率だが、質問 6-4 で理工学系に次いで外国語教育に熱心な姿勢を見せた医歯薬看護系の留学生対応はあまり進んでいない。

図表-33：留学生への対応について（全体・設置者別）

	全体 N=616	国立 N=165	公立 N=64	私立 N=382
1. 優秀な留学生の受け入れ拡大に向けた取り組みを実践	34.9%	49.1%	25.0%	31.2%
2. 受け入れ留学生に対する日本人大学院生のメンター制度を導入	18.6%	41.8%	15.6%	9.4%
3. 受け入れ留学生に対する大学独自の経済的補助制度を導入	41.8%	37.6%	25.0%	46.9%
4. 外国語で履修できる科目を提供	25.7%	55.8%	18.8%	14.4%
5. 日本語習得のためのカリキュラム、講座などを提供	28.0%	47.3%	14.1%	22.5%
無回答	29.9%	14.5%	39.1%	35.6%

図表-34：留学生への対応について（系統別）

	文学・語学 N=80	政経法社 N=198	医歯薬看護 N=128	理工学 N=137	教育・心理 N=94	生活 N=26	芸術・体育 N=39
1. 優秀な留学生の受け入れ拡大に向けた取り組みを実践	38.8%	43.9%	25.8%	43.8%	25.5%	26.9%	38.5%
2. 受け入れ留学生に対する日本人大学院生のメンター制度を導入	20.0%	18.2%	10.2%	35.8%	19.1%	19.2%	25.6%
3. 受け入れ留学生に対する大学独自の経済的補助制度を導入	52.5%	53.5%	32.8%	50.4%	27.7%	30.8%	28.2%
4. 外国語で履修できる科目を提供	23.8%	23.2%	28.9%	48.9%	9.6%	19.2%	12.8%
5. 日本語習得のためのカリキュラム、講座などを提供	36.3%	30.8%	21.1%	37.2%	33.0%	26.9%	28.2%
無回答	23.8%	19.7%	39.8%	16.8%	45.7%	53.8%	30.8%

質問 6-6：大学院生の海外経験のための制度について（複数選択）〔図表-35、36〕

- ・全体として、海外の大学院との交換留学・派遣留学制度の導入が進んでいる。特に、国立、理工学系でその特徴が強く見られる。

図表-35：院生の海外経験のための制度について（全体・設置者別）

	全体 N=616	国立 N=165	公立 N=64	私立 N=382
1. 海外大学院との交換留学・派遣留学の制度を導入	41.8%	68.5%	37.5%	31.9%
2. 海外の企業・官公庁等でのインターンシップを経験させる制度を導入	10.1%	23.0%	6.3%	5.5%
3. 海外大学院との単位相互認定制度を導入	15.8%	33.9%	12.5%	9.2%
無回答	53.9%	24.8%	59.4%	66.0%

図表-36：院生の海外経験のための制度について（系統別）

	文学・語学 N=80	政経法社 N=198	医歯薬看護 N=128	理工学 N=137	教育・心理 N=94	生活 N=26	芸術・体育 N=39
1. 海外大学院との交換留学・派遣留学の制度を導入	55.0%	43.4%	28.1%	62.0%	33.0%	34.6%	59.0%
2. 海外の企業・官公庁等でのインターンシップを経験させる制度を導入	10.0%	10.6%	3.9%	22.6%	7.4%	3.8%	5.1%
3. 海外大学院との単位相互認定制度を導入	22.5%	18.2%	8.6%	29.2%	13.8%	11.5%	20.5%
無回答	43.8%	52.5%	67.2%	32.8%	63.8%	65.4%	43.6%

質問 6-7：大学院生の海外経験を支援する制度について（複数選択）〔図表-37、38〕

- ・「3. 海外の学会などで研究発表をするための経済的支援制度を導入」が最多。次いで、「1. 海外大学院との交換留学・派遣留学の経済的支援制度を導入」となっている。インターンシップなど就業経験のための支援よりも、学術的な経験のための支援が導入されているといえる。
- ・芸術・体育系で「1. 海外大学院との交換留学・派遣留学の経済的支援制度を導入」が 41.0%と高い率を示しているが、選択した者の多くは音楽・美術などの芸術系統の研究科であった。

図表-37：院生の海外経験を支援するための制度について（全体・設置者別）

	全体 N=616	国立 N=165	公立 N=64	私立 N=382
1. 海外大学院との交換留学・派遣留学の経済的支援制度を導入	28.3%	43.0%	25.0%	23.3%
2. 海外の企業・官公庁等でのインターンシップを経験させるための経済的支援制度を導入	7.1%	16.4%	9.4%	2.9%
3. 海外の学会などで研究発表をするための経済的支援制度を導入	38.1%	53.9%	43.8%	31.4%
4. 海外でのフィールドワークへの参加や実施のための経済的支援制度を導入	16.4%	16.4%	12.5%	17.3%
5. 海外での学会活動・研究活動に必要な語学力習得のための支援制度を導入	9.8%	17.6%	14.1%	6.0%
無回答	44.7%	28.5%	42.2%	52.4%

図表-38：院生の海外経験を支援するための制度について（系統別）

	文学・語学 N=80	政経法社 N=198	医歯薬看護 N=128	理工学 N=137	教育・心理 N=94	生活 N=26	芸術・体育 N=39
1. 海外大学院との交換留学・派遣留学の経済的支援制度を導入	32.5%	26.3%	21.1%	43.8%	19.1%	26.9%	41.0%
2. 海外の企業・官公庁等でのインターンシップを経験させるための経済的支援制度を導入	5.0%	6.1%	4.7%	17.5%	3.2%	3.8%	2.6%
3. 海外の学会などで研究発表をするための経済的支援制度を導入	30.0%	32.3%	37.5%	65.0%	25.5%	34.6%	28.2%
4. 海外でのフィールドワークへの参加や実施のための経済的支援制度を導入	15.0%	23.2%	10.2%	16.1%	11.7%	15.4%	20.5%
5. 海外での学会活動・研究活動に必要な語学力習得のための支援制度を導入	7.5%	7.6%	6.3%	19.0%	5.3%	15.4%	12.8%
無回答	46.3%	48.0%	51.6%	24.1%	58.5%	50.0%	41.0%

質問 6-8：大学院生の海外経験で必須としているもの（複数選択）〔図表-39、40〕

- ・必須として学生に課している海外経験は少ない。最多でも、「3. 海外の学会での研究発表」の 5.9%である。

図表-39：院生の海外経験で必須としているもの（全体・設置者別）

	全体 N=616	国立 N=165	公立 N=64	私立 N=382
1. 海外大学院への交換留学・派遣留学の経験	3.5%	4.2%	4.7%	3.1%
2. 海外の企業・官公庁等でのインターンシップの経験	1.3%	3.6%	0.0%	0.5%
3. 海外の学会などで研究発表	5.9%	9.1%	6.3%	4.7%
4. 海外でのフィールドワークへの参加や実施	2.4%	2.4%	1.6%	2.6%
無回答	89.7%	86.7%	90.6%	92.1%

図表-40：院生の海外経験で必須としているもの（系統別）

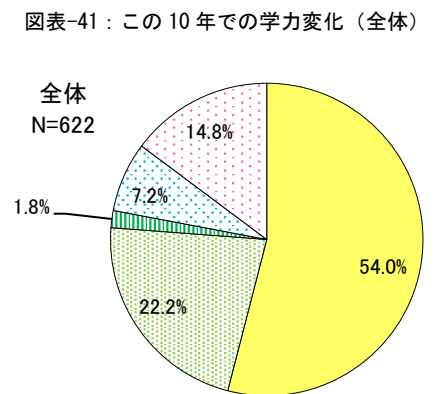
	文学・語学 N=80	政経法社 N=198	医歯薬看護 N=128	理工学 N=137	教育・心理 N=94	生活 N=26	芸術・体育 N=39
1. 海外大学院への交換留学・派遣留学の経験	3.8%	3.0%	3.1%	4.4%	2.1%	0.0%	7.7%
2. 海外の企業・官公庁等でのインターンシップの経験	1.3%	1.0%	2.3%	1.5%	1.1%	0.0%	0.0%
3. 海外の学会などで研究発表	5.0%	3.0%	7.8%	10.9%	2.1%	7.7%	2.6%
4. 海外でのフィールドワークへの参加や実施	5.0%	3.0%	2.3%	0.7%	2.1%	0.0%	2.6%
無回答	87.5%	92.9%	88.3%	83.9%	93.6%	92.3%	94.9%

質問 7：大学院生の学力・能力について

（専門職大学院は修士・博士前期課程に、一貫性博士課程は博士・博士後期課程に含む）

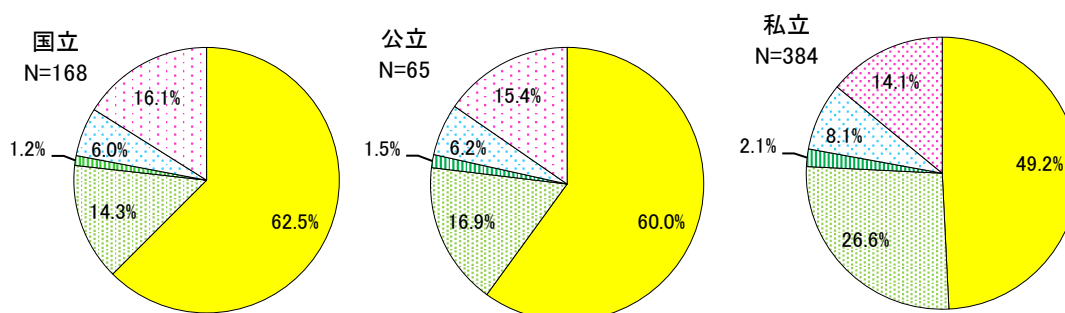
質問 7-1：この 10 年での大学院生の学力変化（単一選択）〔図表-41、42、43〕

- ・半数を超える 54.0%で学力が低下していないとの回答を得ている。少なくとも大学院レベルでは学力低下は深刻であるとは捉えられていない。
- ・設置者別では、私立が国公立に比べてやや学力低下を危惧している。
- ・学力低下を危惧しているのは、生活系が最も高い。

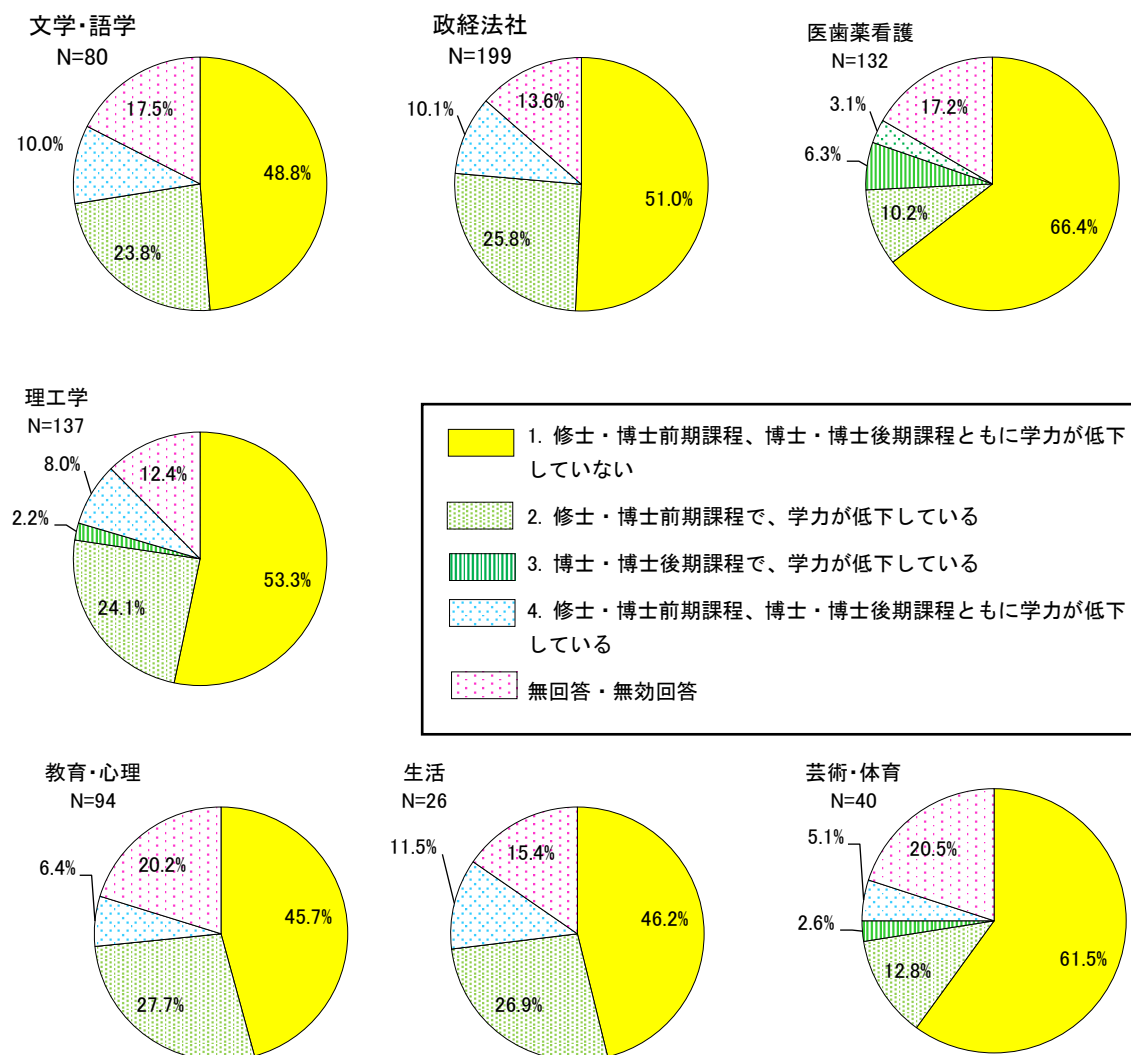


<凡例次項>

図表-42：この10年での学力変化（設置者別）



図表-43：この10年での学力変化（系統別）



質問 7-2：現在の大学院生の研究能力（単一選択）

- ・研究能力についても、半数を超える 55.1%で能力が低下していないとの回答を得ている。
- ・この 10 年での大学院生の「学力変化」（質問 7-1）で、学力が低下していると回答した研究科のうち 8 割を超える研究科が、研究能力の低下も同時に指摘していた。

質問 7-3：現在の大学院生に特に欠けていると思われる能力（複数選択）〔図表-44、45〕

- ・個々の院生により異なり、一概には指摘できないという回答が多い。
- ・特定の能力が欠如しているという傾向は見られないが、「2. 海外の研究者とのコミュニケーション能力」「3. 研究で必要となる学問的蓄積」がやや多かった。

図表-44：現在の院生に特に欠けていると思われる能力（全体・設置者別）

	全体 N=622	国立 N=168	公立 N=65	私立 N=384
1. 日本人としての基本的なコミュニケーション能力	6.3%	7.1%	7.7%	5.5%
2. 海外の研究者とのコミュニケーション能力	24.0%	17.3%	27.7%	26.6%
3. 研究で必要となる学問的蓄積	23.0%	13.1%	20.0%	28.1%
4. 課題や問題を発見する力	14.1%	10.7%	7.7%	16.9%
5. 課題や問題を解決するための思考能力	12.4%	9.5%	6.2%	14.6%
6. 自発的に研究を進めようとする意欲	14.0%	10.7%	13.8%	15.6%
7. 個々の院生により異なり、一概には指摘できない	68.8%	75.6%	73.8%	64.8%
無回答・無効回答	7.7%	24.4%	26.2%	35.2%

図表-45：現在の院生に特に欠けていると思われる能力（系統別）

	文学・語学 N=80	政経法社 N=199	医歯薬看護 N=132	理工学 N=137	教育・心理 N=94	生活 N=26	芸術・体育 N=40
1. 日本人としての基本的なコミュニケーション能力	5.0%	5.0%	6.8%	11.7%	6.4%	11.5%	5.0%
2. 海外の研究者とのコミュニケーション能力	25.0%	19.6%	28.0%	21.2%	33.0%	23.1%	22.5%
3. 研究で必要となる学問的蓄積	28.8%	27.6%	16.7%	15.3%	29.8%	30.8%	17.5%
4. 課題や問題を発見する力	16.3%	17.1%	9.1%	10.9%	24.5%	23.1%	12.5%
5. 課題や問題を解決するための思考能力	10.0%	13.6%	9.8%	11.7%	21.3%	23.1%	10.0%
6. 自発的に研究を進めようとする意欲	8.8%	12.6%	13.6%	16.8%	13.8%	23.1%	12.5%
7. 個々の院生により異なり、一概には指摘できない	61.3%	67.3%	72.7%	73.0%	67.0%	61.5%	70.0%
該当なし	13.8%	7.0%	9.8%	6.6%	7.4%	0.0%	7.5%

「高等教育機関が求める人材像」に関する実態調査 報告書《大学編》

1. 実態調査の概要と回答学部属性

調査概要

- ・調査実施期日：2015年11月発送、12月2日締切
- ・調査票発送対象：全国の4年生大学2225学部〔図表-1〕
- ・回答数(回答率)：567学部(25.5%)

(備考：同時に短期大学の学科、大学院の研究科を対象とする調査を実施)

回答学部属性

●設置者別集計〔図表-2〕

設置者別の回収率は、国立34.7%、公立33.1%、私立22.5%となった。

●学問系統別集計〔図表-3、4〕

調査においては、18の学問系統に区分したが、分析の段階で8系統にまとめている。

8系統中で回答学部が最も多かったのは、「政経法社」の160学部(28.2%)だった。次いで、「医歯薬看護」の131学部(23.1%)、「理工学」の112学部(19.8%)、「教育・心理」の79学部(13.9%)と続く。

図表-1：設置者別発送学部数

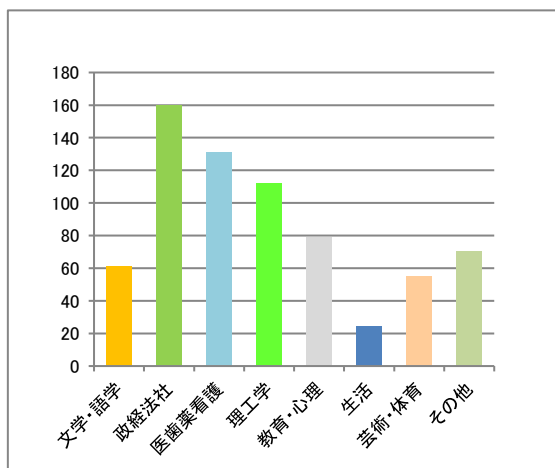
(N=2225)			
	設置者	発送数	
1	国立	366	16.4%
2	公立	178	8.0%
3	私立	1680	75.5%
4	その他	1	0.04%

図表-2：設置者別回答学部数と本分析における比率(N=567)

()内は設置者別回収率			
	設置者	回答数	(回収率)
1	国立	131	22.4% (34.7%)
2	公立	59	10.4% (33.1%)
3	私立	374	66.7% (22.5%)
4	その他	1	0.2% (100.0%)

他に設置者未回答が2件あり

図表-3：8系統の回答学部数



図表-4：学問系統による回答学部数(N=567)

1.文学	49	8.6%	文学・語学	61	10.8%
2.語学	35	6.2%			
3.法学・政治学	30	5.3%			
4.経済・経営・商学	99	17.5%	政経法社	160	28.2%
5.社会学	49	8.6%			
6.国際関係学	17	3.0%			
7.看護・医療学	77	13.8%	医歯薬看護	131	23.1%
8.医・歯学	52	9.0%			
9.薬学	24	4.2%			
10.理学	36	6.3%	理工学	112	19.8%
11.工学	72	12.7%			
12.農・水産学	23	4.1%			
13.教員養成・教育学	64	11.3%	教育・心理	79	13.9%
14.心理学	27	4.8%			
15.生活科学	24	4.2%	生活	24	4.2%
16.芸術	27	4.8%	芸術・体育	55	9.7%
17.体育・健康科学	30	5.3%			
18.その他	70	12.3%	その他	70	12.3%

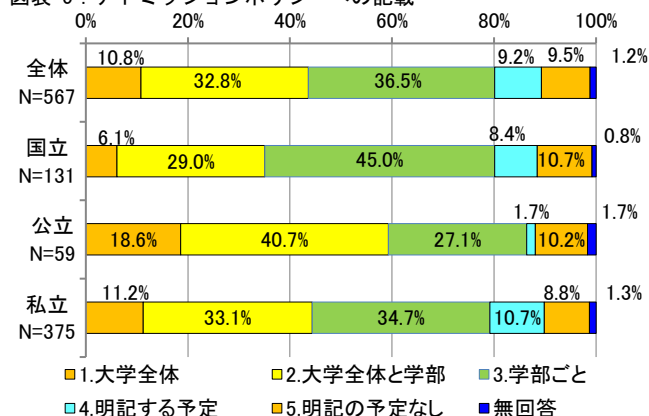
2. 各質問の集計結果と傾向分析

質問1：入学者選抜試験について

質問1-1：高等学校段階で習得すべき学習内容・水準をアドミッション・ポリシーに明記しているか（単一選択）〔図表-5〕

- ・ 8 割以上が高校段階で習得すべき学習内容・水準をアドミッション・ポリシーに記載していることが分かる。

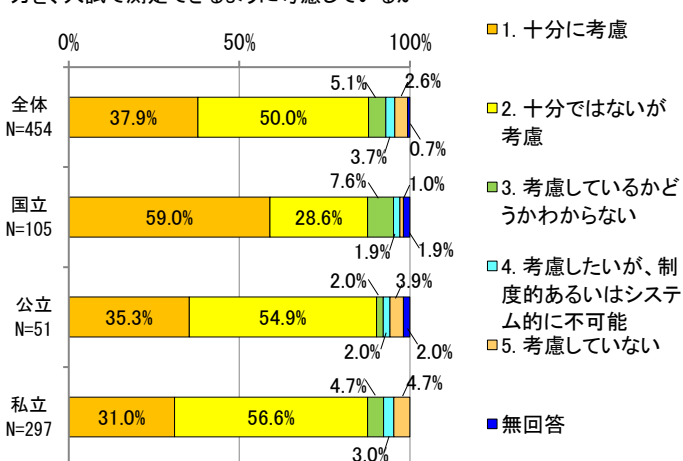
図表-5：アドミッションポリシーへの記載



質問1-2：アドミッション・ポリシーに高校で習得すべき学習内容・水準を記載（質問1-1で選択肢1、2、3のいずれかを回答）している学科に対して、記載している「必要とされる学力」を、入試で測定できるように考慮しているか（単一選択）〔図表-6〕

- ・ 9 割近くの学部で、アドミッション・ポリシーに記載されている「必要とされる学力」を入試の際に測定できるように考慮されている。

図表-6：アドミッション・ポリシーに記載された必要とされる学力を、入試で測定できるように考慮しているか



質問 1-3：入試において、どのような能力を評価すべきか（複数選択）〔図表-7〕

- ・ どの入試方式においても、基礎学力が非常に重視されている。
- ・ 日本語で正しく表現、理解する力や、論理的思考力も多くの入試方式で重視されている。
- ・ どの推薦入試も全体的に、「7. 会話において相手の話をよく聞く能力」をはじめ、「19. 勤勉性・誠実性」「20. 主体性・自主性」「21. 健康・生活管理能力」といった人間性・生活態度に関する項目が多く選択されている傾向にある。
- ・ 《A0 入試》と《社会人入試》では、他の入試方式に比べ、さまざまな能力を全体的に評価する傾向が強い。
- ・ 《帰国子女入試》と《外国人留学生入試》では、幅広い視野や異なる価値観の受容など、受験者のもつ強みに付随する力を測定しようとしている。

図表-7：高校までに培われたどのような能力を評価すべきか（全体）

	一般入試 N=563	公募推薦 N=490	指定校 推薦 N=352	AO入試 N=329	付属校等 推薦 N=221	スポーツ 推薦 N=157	帰国子女 N=258	外国人 留学生 N=363	社会人 N=318
1.基礎学力	99.1%	89.2%	85.5%	70.5%	85.5%	69.4%	83.3%	82.9%	71.4%
2.学問分野にこだわらない広い視野	30.2%	36.3%	32.7%	51.7%	33.0%	33.1%	40.3%	33.9%	54.4%
3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力	67.9%	75.9%	69.6%	70.5%	64.3%	61.1%	77.9%	83.7%	66.7%
4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	69.8%	70.2%	60.8%	63.5%	61.1%	54.8%	75.2%	83.5%	61.0%
5.他者を説得する能力	10.7%	24.1%	21.0%	38.0%	19.0%	15.3%	15.1%	14.6%	25.8%
6.他者と交渉する能力	9.2%	18.8%	15.6%	29.5%	18.6%	12.7%	10.9%	11.8%	22.0%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	24.9%	58.2%	60.8%	69.3%	46.2%	42.7%	45.7%	47.7%	50.3%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	21.1%	31.4%	27.8%	38.0%	30.3%	19.7%	38.8%	41.0%	34.6%
9.英語などの外国語コミュニケーション能力	33.6%	24.3%	17.9%	19.1%	15.4%	7.0%	42.6%	33.3%	15.4%
10.論理的思考力	70.5%	72.0%	53.1%	64.7%	50.2%	38.2%	57.4%	54.0%	62.6%
11.創造的思考力	33.0%	40.6%	29.5%	54.4%	29.0%	19.1%	33.7%	31.7%	37.7%
12.客観的・批判的思考力	38.7%	42.9%	29.5%	45.3%	30.3%	22.9%	33.7%	31.7%	39.9%
13.問題発見・解決力	41.2%	44.9%	36.9%	58.7%	34.4%	24.8%	31.8%	31.4%	43.4%
14.情報収集・分析・活用力	31.4%	32.4%	25.0%	44.4%	26.2%	21.0%	23.3%	24.0%	34.9%
15.洞察力・状況判断力	25.0%	29.4%	24.7%	38.0%	22.2%	22.3%	21.3%	22.3%	34.6%
16.行動力・実行力	18.3%	35.3%	36.6%	54.7%	33.0%	43.3%	24.8%	21.5%	36.2%
17.精神力・忍耐力	14.7%	23.9%	24.4%	24.6%	21.7%	38.9%	16.7%	14.3%	21.7%
18.柔軟性・協調性	22.6%	23.9%	41.5%	50.2%	35.7%	35.7%	33.3%	26.7%	39.6%
19.勤勉性・誠実性	24.5%	42.0%	52.8%	45.6%	46.6%	41.4%	34.1%	32.8%	40.3%
20.主体性・自主性	27.5%	46.9%	50.9%	69.0%	47.5%	48.4%	41.1%	38.0%	49.7%
21.健康・生活管理能力	20.6%	53.5%	36.9%	34.7%	31.2%	49.7%	22.1%	24.2%	29.9%
22.その他 具体的に	3.7%	30.8%	4.0%	3.6%	2.3%	3.2%	3.1%	3.3%	3.8%

【設置者別】〔図表-8-a、b、c〕

- ・国立で「10. 論理的思考力」「11. 創造的思考力」「12. 客観的・批判的思考力」「13. 問題発見・解決力」のような思考力を中心とする能力を重視する傾向がほぼ全ての入試方式において高い。

図表-8-a：高校までに培われたどのような能力を評価すべきか（設置者別／一般入試・公募推薦・指定校推薦）

	一般入試			公募推薦			指定校推薦		
	国立 N=129	公立 N=59	私立 N=373	国立 N=106	公立 N=50	私立 N=334	国立 N=5	公立 N=9	私立 N=337
1.基礎学力	100.0%	98.3%	98.9%	88.7%	90.0%	89.2%	100.0%	100.0%	85.2%
2.学問分野にこだわらない広い視野	45.0%	42.4%	23.1%	50.0%	44.0%	30.8%	40.0%	55.6%	32.0%
3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力	76.0%	78.0%	63.3%	79.2%	84.0%	73.7%	60.0%	88.9%	69.1%
4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	73.6%	79.7%	66.8%	70.8%	78.0%	68.9%	60.0%	77.8%	60.2%
5.他者を説得する能力	14.0%	13.6%	9.1%	31.1%	20.0%	22.5%	0.0%	55.6%	20.5%
6.他者と交渉する能力	9.3%	10.2%	9.1%	20.8%	14.0%	18.9%	0.0%	44.4%	15.1%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	26.4%	44.1%	21.4%	60.4%	62.0%	56.9%	60.0%	77.8%	60.2%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	24.0%	35.6%	17.4%	33.0%	42.0%	29.3%	20.0%	55.6%	27.3%
9.英語などの外国語によるコミュニケーション能力	34.9%	37.3%	32.4%	24.5%	40.0%	21.9%	20.0%	44.4%	17.2%
10.論理的思考力	89.1%	78.0%	62.7%	90.6%	82.0%	64.7%	60.0%	88.9%	51.9%
11.創造的思考力	51.2%	47.5%	24.4%	57.5%	56.0%	32.9%	40.0%	55.6%	28.8%
12.客観的・批判的思考力	51.2%	54.2%	31.6%	57.5%	56.0%	36.2%	20.0%	33.3%	29.4%
13.問題発見・解決力	49.6%	50.8%	36.7%	57.5%	48.0%	40.4%	40.0%	55.6%	36.5%
14.情報収集・分析・活用力	40.3%	42.4%	26.8%	42.5%	40.0%	28.1%	20.0%	55.6%	24.3%
15.洞察力・状況判断力	33.3%	40.7%	19.6%	42.5%	38.0%	24.0%	20.0%	66.7%	23.7%
16.行動力・実行力	20.9%	28.8%	15.5%	43.4%	36.0%	32.6%	40.0%	77.8%	35.6%
17.精神力・忍耐力	15.5%	20.3%	13.7%	27.4%	26.0%	22.5%	60.0%	55.6%	23.1%
18.柔軟性・協調性	25.6%	35.6%	19.6%	49.1%	48.0%	38.9%	60.0%	66.7%	40.7%
19.勤勉性・誠実性	23.3%	30.5%	24.1%	49.1%	42.0%	47.0%	20.0%	55.6%	53.1%
20.主体性・自主性	29.5%	40.7%	24.9%	64.2%	56.0%	49.7%	60.0%	55.6%	50.7%
21.健康・生活管理能力	17.8%	25.4%	20.9%	22.6%	32.0%	33.2%	20.0%	55.6%	36.8%
22.その他 具体的に	5.4%	3.4%	2.9%	5.7%	2.0%	3.3%	0.0%	11.1%	3.9%

図表-8-b：高校までに培われたどのような能力を評価すべきか（設置者別／AO入試・付属校等・スポーツ推薦）

	AO入試			付属校等			スポーツ推薦		
	国立 N=47	公立 N=11	私立 N=270	国立 N=6	公立 N=3	私立 N=209	国立 N=3	公立 N=1	私立 N=157
1.基礎学力	89.4%	81.8%	66.7%	89.4%	81.8%	85.6%	89.4%	81.8%	68.6%
2.学問分野にこだわらない広い視野	61.7%	36.4%	50.4%	61.7%	36.4%	32.5%	61.7%	36.4%	32.7%
3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力	83.0%	72.7%	68.1%	83.0%	72.7%	64.1%	83.0%	72.7%	62.1%
4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	78.7%	72.7%	60.4%	78.7%	72.7%	60.8%	78.7%	72.7%	55.6%
5.他者を説得する能力	38.3%	27.3%	38.5%	38.3%	27.3%	19.1%	38.3%	27.3%	15.7%
6.他者と交渉する能力	27.7%	27.3%	30.0%	27.7%	27.3%	18.7%	27.7%	27.3%	13.1%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	61.7%	72.7%	70.4%	61.7%	72.7%	45.5%	61.7%	72.7%	41.8%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	38.3%	45.5%	37.4%	38.3%	45.5%	30.6%	38.3%	45.5%	20.3%
9.英語などの外国語によるコミュニケーション能力	36.2%	18.2%	16.3%	36.2%	18.2%	16.3%	36.2%	18.2%	7.2%
10.論理的思考力	89.4%	81.8%	59.6%	89.4%	81.8%	49.3%	89.4%	81.8%	37.9%
11.創造的思考力	80.9%	54.5%	50.0%	80.9%	54.5%	28.2%	80.9%	54.5%	19.0%
12.客観的・批判的思考力	66.0%	63.6%	40.7%	66.0%	63.6%	30.1%	66.0%	63.6%	22.9%
13.問題発見・解決力	85.1%	63.6%	54.1%	85.1%	63.6%	34.0%	85.1%	63.6%	24.8%
14.情報収集・分析・活用力	59.6%	54.5%	41.5%	59.6%	54.5%	26.3%	59.6%	54.5%	20.9%
15.洞察力・状況判断力	61.7%	63.6%	32.6%	61.7%	63.6%	21.5%	61.7%	63.6%	22.9%
16.行動力・実行力	63.8%	54.5%	53.3%	63.8%	54.5%	32.5%	63.8%	54.5%	43.8%
17.精神力・忍耐力	27.7%	36.4%	23.7%	27.7%	36.4%	21.1%	27.7%	36.4%	39.2%
18.柔軟性・協調性	48.9%	54.5%	50.4%	48.9%	54.5%	35.9%	48.9%	54.5%	35.3%
19.勤勉性・誠実性	48.9%	18.2%	45.9%	48.9%	18.2%	45.9%	48.9%	18.2%	41.2%
20.主体性・自主性	78.7%	45.5%	68.1%	78.7%	45.5%	46.9%	78.7%	45.5%	49.0%
21.健康・生活管理能力	27.7%	27.3%	36.3%	27.7%	27.3%	31.6%	27.7%	27.3%	51.0%
22.その他 具体的に	8.5%	0.0%	3.0%	8.5%	0.0%	2.4%	8.5%	0.0%	3.3%

図表-8-c：高校までに培われたどのような能力を評価すべきか（設置者別／帰国子女・外国人留学生・社会人入試）

	帰国子女入試			外国人留学生入試			社会人入試		
	国立 N=62	公立 N=22	私立 N=174	国立 N=109	公立 N=31	私立 N=223	国立 N=42	公立 N=59	私立 N=246
1.基礎学力	93.5%	100.0%	77.6%	94.5%	90.3%	76.2%	76.2%	47.5%	67.9%
2.学問分野にこだわらない広い視野	46.8%	54.5%	36.2%	37.6%	45.2%	30.0%	57.1%	25.4%	54.5%
3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力	77.4%	77.3%	78.2%	78.9%	83.9%	85.7%	66.7%	40.7%	65.0%
4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	71.0%	81.8%	75.9%	82.6%	87.1%	83.0%	66.7%	37.3%	58.5%
5.他者を説得する能力	22.6%	22.7%	11.5%	21.1%	12.9%	11.7%	33.3%	8.5%	25.6%
6.他者と交渉する能力	12.9%	13.6%	9.8%	15.6%	9.7%	10.3%	19.0%	8.5%	23.2%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	50.0%	59.1%	42.5%	48.6%	51.6%	46.2%	59.5%	30.5%	47.6%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	40.3%	50.0%	36.8%	36.7%	54.8%	40.8%	23.8%	27.1%	34.1%
9.英語などの外国語によるコミュニケーション能力	33.9%	36.4%	46.6%	34.9%	38.7%	31.8%	11.9%	10.2%	15.4%
10.論理的思考力	85.5%	77.3%	44.8%	75.2%	71.0%	41.3%	83.3%	39.0%	57.3%
11.創造的思考力	56.5%	50.0%	23.6%	48.6%	48.4%	20.6%	47.6%	23.7%	35.0%
12.客観的・批判的思考力	53.2%	54.5%	24.1%	46.8%	51.6%	21.5%	52.4%	32.2%	35.0%
13.問題発見・解決力	40.3%	36.4%	28.2%	45.9%	35.5%	23.8%	52.4%	20.3%	42.3%
14.情報収集・分析・活用力	33.9%	36.4%	17.8%	33.9%	29.0%	18.4%	40.5%	16.9%	34.1%
15.洞察力・状況判断力	32.3%	31.8%	16.1%	34.9%	32.3%	14.8%	47.6%	18.6%	32.1%
16.行動力・実行力	27.4%	22.7%	24.1%	27.5%	25.8%	17.5%	33.3%	15.3%	37.4%
17.精神力・忍耐力	21.0%	13.6%	15.5%	19.3%	12.9%	12.1%	28.6%	6.8%	21.5%
18.柔軟性・協調性	37.1%	36.4%	31.6%	33.0%	25.8%	23.8%	40.5%	22.0%	39.0%
19.勤勉性・誠実性	38.7%	31.8%	32.8%	38.5%	32.3%	30.0%	42.9%	15.3%	41.1%
20.主体性・自主性	40.3%	50.0%	40.2%	39.4%	38.7%	36.8%	54.8%	23.7%	49.2%
21.健康・生活管理能力	17.7%	22.7%	23.6%	22.0%	22.6%	25.6%	21.4%	11.9%	32.1%
22.その他 具体的に	4.8%	4.5%	2.3%	5.5%	3.2%	2.2%	4.8%	1.7%	3.7%

【系統別】〔図表-9〕

- ・医歯薬看護系統では、他系統に比べて測定しようとしている項目が多岐に渡る。特に「17. 精神力・忍耐力」「18. 柔軟性・協調性」「19. 勤勉性・誠実性」「20. 主体性・自主性」「21. 健康・生活管理能力」の選択率が高い。

図表-9：高校までに培われたどのような能力を評価すべきか（系統別／一般入試）

	文学・語学 N=61	政経 法社 N=159	医歯薬 看護 N=130	理工学 N=110	教育・心理 N=79	生活 N=24	芸術・体育 N=55
1.基礎学力	100.0%	99.4%	99.2%	100.0%	98.7%	100.0%	96.4%
2.学問分野にこだわらない広い視野	36.1%	25.8%	39.2%	22.7%	32.9%	12.5%	32.7%
3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力	77.0%	69.2%	73.8%	57.3%	69.6%	70.8%	65.5%
4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	80.3%	72.3%	73.1%	58.2%	72.2%	66.7%	69.1%
5.他者を説得する能力	9.8%	10.1%	16.2%	5.5%	11.4%	12.5%	16.4%
6.他者と交渉する能力	3.3%	6.9%	16.9%	4.5%	6.3%	12.5%	12.7%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	9.8%	15.7%	55.4%	13.6%	16.5%	20.8%	27.3%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	23.0%	17.0%	37.7%	10.0%	15.2%	12.5%	30.9%
9.英語などの外国語によるコミュニケーション能力	45.9%	30.8%	40.0%	21.8%	32.9%	16.7%	32.7%
10.論理的思考力	68.9%	68.6%	81.5%	76.4%	59.5%	50.0%	61.8%
11.創造的思考力	26.2%	27.0%	43.8%	33.6%	29.1%	16.7%	50.9%
12.客観的・批判的思考力	41.0%	35.2%	48.5%	29.1%	40.5%	29.2%	43.6%
13.問題発見・解決力	39.3%	41.5%	55.4%	36.4%	44.3%	41.7%	41.8%
14.情報収集・分析・活用力	23.0%	31.4%	41.5%	26.4%	27.8%	16.7%	29.1%
15.洞察力・状況判断力	19.7%	18.9%	38.5%	20.0%	24.1%	12.5%	30.9%
16.行動力・実行力	9.8%	11.3%	31.5%	14.5%	17.7%	12.5%	25.5%
17.精神力・忍耐力	9.8%	8.2%	35.4%	6.4%	8.9%	8.3%	18.2%
18.柔軟性・協調性	9.8%	12.6%	48.5%	6.4%	21.5%	20.8%	23.6%
19.勤勉性・誠実性	14.8%	15.1%	45.4%	10.9%	22.8%	25.0%	20.0%
20.主体性・自主性	14.8%	18.9%	45.4%	16.4%	26.6%	12.5%	30.9%
21.健康・生活管理能力	8.2%	10.1%	40.8%	23.6%	12.7%	20.8%	27.3%
22.その他 具体的に	0.0%	1.3%	3.8%	11.8%	3.8%	0.0%	14.5%

質問2：入学後の学生の育成状況について

質問2-1：入学時に不足しており、入学後に培うべきと思われる能力（複数選択）〔図表-10、11〕

- ・「13. 問題発見・解決力」（76.3%）、「10. 論理的思考力」（73.1%）の2つの選択率が7割を超えていることから分かるように、入学の時点では、思考力を中心とする基礎学習能力（選択肢10から15）が課題とされている。
- ・コミュニケーション能力（選択肢3から9）では「3. 日本語で正しく表現（書く、話す）する力」と「9. 英語などの外国語によるコミュニケーション能力」が、個人の資質に関する項目（選択肢16から21）では「20. 主体性・自主性」が、いずれも6割を超えている。
- ・自らの頭で考え、それを表現する能力を培うことが求められていると言える。
- ・私立では「1. 基礎学力」「3. 日本語で正しく表現（書く・話す）する力」「4. 日本語で正しく理解（読む・聞く）する力」が、国公立に比べるとかなり高い。
- ・生活系において、「1. 基礎学力」が目立って指摘されている。
- ・文学・語学系では「10. 論理的思考力」「12. 客観的・批判的思考力」「14. 情報収集・分析・活用力」など、思考力に関する項目の指摘が多い。
- ・医歯薬看護系では「17. 精神力・忍耐力」「18. 柔軟性・協調性」「21. 健康・生活管理能力」など個人の資質に関する項目の指摘が多い。

図表-10：入学後に培うべきと思われる能力（全体・設置者別）

	全体 N=553	国立 N=128	公立 N=55	私立 N=368
1.基礎学力	59.1%	28.9%	38.2%	73.1%
2.学問分野にこだわらない広い視野	56.6%	62.5%	54.5%	54.9%
3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力	66.5%	49.2%	54.5%	74.7%
4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	56.8%	31.3%	47.3%	67.1%
5.他者を説得する能力	37.8%	32.0%	41.8%	39.4%
6.他者と交渉する能力	44.1%	38.3%	50.9%	45.4%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	42.7%	31.3%	38.2%	47.3%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	48.3%	44.5%	58.2%	47.8%
9.英語などの外国語によるコミュニケーション能力	64.7%	75.8%	67.3%	60.3%
10.論理的思考力	73.1%	67.2%	63.6%	76.6%
11.創造的思考力	53.7%	58.6%	58.2%	51.1%
12.客観的・批判的思考力	61.5%	61.7%	65.5%	60.9%
13.問題発見・解決力	76.3%	74.2%	76.4%	77.2%
14.情報収集・分析・活用力	60.8%	60.2%	58.2%	61.4%
15.洞察力・状況判断力	47.9%	51.6%	49.1%	46.5%
16.行動力・実行力	45.8%	39.8%	41.8%	48.6%
17.精神力・忍耐力	34.4%	23.4%	30.9%	38.9%
18.柔軟性・協調性	36.9%	28.9%	32.7%	40.5%
19.勤勉性・誠実性	30.7%	19.5%	30.9%	34.8%
20.主体性・自主性	63.7%	58.6%	54.5%	66.8%
21.健康・生活管理能力	27.3%	21.1%	29.1%	29.3%
22.その他 具体的に	4.3%	3.1%	3.6%	4.9%

図表-11：入学後に培うべきと思われる能力（系統別）

	文学・ 語学 N=59	政経 法社 N=154	医歯薬 看護 N=127	理工学 N=109	教育・ 心理 N=76	生活 N=23	芸術・ 体育 N=55
1.基礎学力	64.4%	61.0%	54.3%	55.0%	57.9%	91.3%	60.0%
2.学問分野にこだわらない広い視野	69.5%	57.8%	49.6%	56.9%	57.9%	52.2%	65.5%
3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力	74.6%	68.2%	66.9%	66.1%	63.2%	73.9%	67.3%
4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	64.4%	59.7%	63.0%	46.8%	52.6%	60.9%	61.8%
5.他者を説得する能力	44.1%	44.2%	38.6%	32.1%	38.2%	34.8%	27.3%
6.他者と交渉する能力	40.7%	45.5%	48.8%	34.9%	44.7%	43.5%	32.7%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	39.0%	44.2%	55.9%	35.8%	40.8%	30.4%	36.4%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	57.6%	53.2%	48.0%	42.2%	51.3%	26.1%	47.3%
9.英語などの外国語によるコミュニケーション能力	71.2%	62.3%	60.6%	77.1%	59.2%	39.1%	63.6%
10.論理的思考力	84.7%	79.2%	68.5%	71.6%	73.7%	65.2%	72.7%
11.創造的思考力	55.9%	54.5%	50.4%	58.7%	59.2%	43.5%	54.5%
12.客観的・批判的思考力	78.0%	63.6%	57.5%	59.6%	67.1%	56.5%	56.4%
13.問題発見・解決力	76.3%	77.3%	80.3%	79.8%	75.0%	87.0%	65.5%
14.情報収集・分析・活用力	71.2%	66.2%	63.8%	59.6%	61.8%	47.8%	50.9%
15.洞察力・状況判断力	50.8%	40.3%	55.9%	50.5%	59.2%	26.1%	43.4%
16.行動力・実行力	50.8%	48.7%	44.1%	40.4%	52.6%	47.8%	45.5%
17.精神力・忍耐力	35.6%	29.2%	48.0%	30.3%	34.2%	34.8%	27.3%
18.柔軟性・協調性	27.1%	31.2%	48.8%	35.8%	38.2%	39.1%	36.4%
19.勤勉性・誠実性	33.9%	22.1%	39.4%	27.5%	28.9%	26.1%	29.1%
20.主体性・自主性	67.8%	60.4%	68.5%	62.4%	68.4%	56.5%	60.0%
21.健康・生活管理能力	20.3%	18.2%	44.9%	22.9%	25.0%	30.4%	27.3%
22.その他 具体的に	1.7%	5.2%	3.9%	4.6%	6.6%	4.3%	7.3%

質問 2-2：大学でどの能力をどの程度発展・向上させることができたと考えるか（単一選択）

〔図表-12、13〕

- ・ どの項目も、十分とは言い難いが、ある程度の発展・向上ができていたとの回答が多かった。
- ・ 6 割以上の学部が入学時点で不足していると指摘した「3. 日本語で正しく表現（書く・話す）力」については「ある程度、発展・向上できている」が 75.7%となっており、教育効果を非常に高く評価している。
- ・ 「9. 英語などの外国語によるコミュニケーション能力」、「5. 他者を説得する能力」、「6. 他者と交渉する能力」など、コミュニケーション能力育成に課題が残るようだ。
- ・ 国立では計 11 項目において「十分に発展・向上できている」の選択が 2 割を超えている。公立で 6 項目、私立で 2 項目であることから、教育の達成度評価は国立が最も高い。

図表-12：大学での教育を通じて、どのような能力をどの程度、発展・向上することができたと考えるか（全体）

【全体】	入学後に培うべき能力 N=553	十分にできている N=567	ある程度できている N=567	あまりできていない N=567	ほとんどできていない N=567
1.基礎学力	59.1%	22.2%	68.1%	6.9%	0.2%
2.学問分野にこだわらない広い視野	56.6%	13.2%	62.6%	19.6%	1.4%
3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力	66.5%	11.3%	75.7%	9.0%	0.4%
4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	56.8%	13.6%	75.3%	6.9%	0.2%
5.他者を説得する能力	37.8%	7.6%	52.4%	31.7%	3.7%
6.他者と交渉する能力	44.1%	7.6%	51.1%	32.5%	4.4%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	42.7%	19.8%	65.3%	10.9%	0.2%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	48.3%	20.8%	58.7%	14.8%	1.2%
9.英語などの外国語によるコミュニケーション能力	64.7%	6.9%	42.5%	36.9%	10.4%
10.論理的思考力	73.1%	14.6%	65.6%	15.9%	0.7%
11.創造的思考力	53.7%	10.6%	58.6%	25.7%	1.6%
12.客観的・批判的思考力	61.5%	11.5%	62.1%	21.7%	1.1%
13.問題発見・解決力	76.3%	18.3%	63.1%	15.0%	0.4%
14.情報収集・分析・活用力	60.8%	18.5%	67.2%	10.4%	0.9%
15.洞察力・状況判断力	47.9%	9.7%	61.9%	22.9%	1.2%
16.行動力・実行力	45.8%	17.1%	63.7%	14.8%	0.5%
17.精神力・忍耐力	34.4%	14.8%	57.8%	22.2%	1.2%
18.柔軟性・協調性	36.9%	21.0%	63.8%	10.8%	0.4%
19.勤勉性・誠実性	30.7%	23.6%	60.5%	11.5%	0.5%
20.主体性・自主性	63.7%	16.2%	65.3%	15.3%	0.2%
21.健康・生活管理能力	27.3%	14.3%	60.1%	19.0%	1.9%
22.その他 具体的に	4.3%	1.4%	1.8%	0.4%	0.0%
無回答		1.4%	1.4%	1.4%	1.4%

図表-13：大学での教育を通じて、どのような能力をどの程度、発展・向上することができたか（設置者別）

【国立】	入学後に培うべき能力	十分にできている	ある程度できている	あまりできていない	ほとんどできていない
	N=128	N=131	N=131	N=131	N=131
1.基礎学力	28.9%	45.8%	48.9%	1.5%	0.0%
2.学問分野にこだわらない広い視野	62.5%	23.7%	61.8%	9.9%	0.0%
3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力	49.2%	21.4%	67.2%	6.1%	0.8%
4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	31.3%	26.7%	64.1%	3.8%	0.0%
5.他者を説得する能力	32.0%	10.7%	58.8%	22.9%	0.8%
6.他者と交渉する能力	38.3%	12.2%	55.7%	25.2%	0.8%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	31.3%	19.8%	67.2%	6.1%	0.0%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	44.5%	25.2%	61.1%	8.4%	0.8%
9.英語などの外国語によるコミュニケーション能力	75.8%	11.5%	52.7%	29.8%	3.1%
10.論理的思考力	67.2%	31.3%	63.4%	0.8%	0.0%
11.創造的思考力	58.6%	17.6%	67.2%	9.9%	0.0%
12.客観的・批判的思考力	61.7%	18.3%	70.2%	6.9%	0.0%
13.問題発見・解決力	74.2%	27.5%	61.8%	6.1%	0.0%
14.情報収集・分析・活用力	60.2%	26.7%	67.2%	1.5%	0.8%
15.洞察力・状況判断力	51.6%	16.0%	69.5%	9.2%	0.8%
16.行動力・実行力	39.8%	18.3%	61.8%	13.0%	0.0%
17.精神力・忍耐力	23.4%	18.3%	57.3%	16.8%	0.8%
18.柔軟性・協調性	28.9%	20.6%	64.1%	9.2%	0.0%
19.勤勉性・誠実性	19.5%	26.7%	56.5%	10.7%	0.0%
20.主体性・自主性	58.6%	24.4%	58.8%	11.5%	0.0%
21.健康・生活管理能力	21.1%	15.3%	57.3%	19.1%	0.8%
22.その他 具体的に	3.1%	0.8%	1.5%	0.0%	0.0%
無回答		1.5%	1.5%	1.5%	1.5%

【公立】	入学後に培うべき能力	十分にできている	ある程度できている	あまりできていない	ほとんどできていない
	N=55	N=59	N=59	N=59	N=59
1.基礎学力	38.2%	22.0%	69.5%	3.4%	0.0%
2.学問分野にこだわらない広い視野	54.5%	16.9%	69.5%	10.2%	0.0%
3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力	54.5%	8.5%	84.7%	1.7%	0.0%
4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	47.3%	15.3%	78.0%	1.7%	0.0%
5.他者を説得する能力	41.8%	3.4%	69.5%	23.7%	0.0%
6.他者と交渉する能力	50.9%	3.4%	64.4%	27.1%	0.0%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	38.2%	27.1%	61.0%	8.5%	0.0%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	58.2%	27.1%	55.9%	10.2%	0.0%
9.英語などの外国語によるコミュニケーション能力	67.3%	6.8%	55.9%	27.1%	6.8%
10.論理的思考力	63.6%	11.9%	76.3%	8.5%	0.0%
11.創造的思考力	58.2%	11.9%	69.5%	15.3%	0.0%
12.客観的・批判的思考力	65.5%	10.2%	78.0%	8.5%	0.0%
13.問題発見・解決力	76.4%	18.6%	66.1%	11.9%	0.0%
14.情報収集・分析・活用力	58.2%	23.7%	67.8%	5.1%	0.0%
15.洞察力・状況判断力	49.1%	8.5%	71.2%	16.9%	0.0%
16.行動力・実行力	41.8%	18.6%	71.2%	6.8%	0.0%
17.精神力・忍耐力	30.9%	18.6%	54.2%	23.7%	0.0%
18.柔軟性・協調性	32.7%	18.6%	69.5%	8.5%	0.0%
19.勤勉性・誠実性	30.9%	23.7%	62.7%	10.2%	0.0%
20.主体性・自主性	54.5%	20.3%	64.4%	11.9%	0.0%
21.健康・生活管理能力	29.1%	16.9%	62.7%	13.6%	3.4%
22.その他 具体的に	3.6%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答		3.4%	3.4%	3.4%	3.4%

【私立】

	入学後に培うべき能力 N=368	十分にできている N=375	ある程度できている N=375	あまりできていない N=375	ほとんどできていない N=375
1.基礎学力	73.1%	14.1%	74.4%	9.3%	0.3%
2.学問分野にこだわらない広い視野	54.9%	9.1%	61.9%	24.5%	1.9%
3.日本語で正しく表現(書く、話す)する力	74.7%	8.0%	77.3%	11.2%	0.3%
4.日本語を正しく理解(読む、聞く)する力	67.1%	8.8%	78.7%	8.8%	0.3%
5.他者を説得する能力	39.4%	7.2%	47.5%	36.0%	5.3%
6.他者と交渉する能力	45.4%	6.7%	47.5%	35.7%	6.4%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	47.3%	18.7%	65.3%	12.8%	0.3%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	47.8%	18.4%	55.4%	17.9%	1.3%
9.英語などの外国語によるコミュニケーション能力	60.3%	5.3%	36.8%	40.8%	13.4%
10.論理的思考力	76.6%	9.3%	65.1%	21.9%	1.1%
11.創造的思考力	51.1%	8.0%	53.6%	32.8%	2.4%
12.客観的・批判的思考力	60.9%	9.3%	57.1%	28.5%	1.6%
13.問題発見・解決力	77.2%	15.2%	63.5%	18.1%	0.5%
14.情報収集・分析・活用力	61.4%	14.9%	67.5%	13.9%	1.1%
15.洞察力・状況判断力	46.5%	7.7%	58.1%	28.3%	1.6%
16.行動力・実行力	48.6%	16.5%	62.9%	16.8%	0.8%
17.精神力・忍耐力	38.9%	13.1%	58.7%	23.7%	1.6%
18.柔軟性・協調性	40.5%	21.6%	62.9%	11.5%	0.5%
19.勤勉性・誠実性	34.8%	22.7%	61.3%	12.0%	0.8%
20.主体性・自主性	66.8%	12.8%	67.7%	17.1%	0.3%
21.健康・生活管理能力	29.3%	13.6%	60.8%	19.7%	2.1%
22.その他 具体的に	4.9%	1.6%	2.1%	0.5%	0.0%
無回答		1.1%	1.1%	1.1%	1.1%

質問3：学部教育内容について

質問3-1：学部で目指している教育システムについて（複数選択）〔図表-14、15〕

- ・ 目標とする教育システムの7つの選択肢のうち5つの選択肢で6割以上の回答率となった。少数にとどまったのは、「4.単位認定を厳格にして、安易に卒業させない」(33.7%)、「6.グローバル・ビジネスを学ぶカリキュラムの実践」(14.2%)の2つである。
- ・ 単位認定の厳格化については、理系の学部での選択率が高かった。
- ・ グローバル・ビジネスを学ぶカリキュラムの実践は、学部柄か、政経法社系に多い。

図表-14：学部で目指している教育システム（全体・設置者別）

	全体 N=564	国立 N=130	公立 N=58	私立 N=374
1.教員と学生との間で質疑や議論がなされる授業の実践	75.4%	76.9%	77.6%	74.6%
2.学生同士の議論が頻繁に行われる授業の実践	66.5%	66.2%	67.2%	65.5%
3.授業におけるグループワークの機会の増加	73.0%	66.9%	72.4%	75.7%
4.単位認定を厳格にして、安易に卒業させない	33.7%	37.7%	29.3%	32.9%
5.学生の思考力、人間性、意欲、視野の広さなどを伸ばすカリキュラムの実践	73.2%	71.5%	81.0%	72.7%
6.グローバル・ビジネスを学ぶカリキュラムの実践	14.2%	17.7%	12.1%	13.4%
7.実習・研修型のトレーニング	65.1%	72.3%	58.6%	63.6%
無回答	1.6%	2.3%	1.7%	1.6%

図表-15：学部で目指している教育システム（系統別）

	文学・語学 N=61	政経法社 N=160	医歯薬 看護 N=129	理工学 N=111	教育・心理 N=78	生活 N=24	芸術・体育 N=55
1.教員と学生との間で質疑や議論がなされる授業の実践	95.1%	80.0%	63.6%	72.1%	83.3%	70.8%	83.6%
2.学生同士の議論が頻繁に行われる授業の実践	78.7%	77.5%	59.7%	61.3%	75.6%	41.7%	67.3%
3.授業におけるグループワークの機会の増加	80.3%	76.9%	76.0%	66.7%	83.3%	62.5%	69.1%
4.単位認定を厳格にして、安易に卒業させない	27.9%	27.5%	45.0%	41.4%	28.2%	25.0%	30.9%
5.学生の思考力、人間性、意欲、視野の広さなどを伸ばすカリキュラムの実践	80.3%	73.1%	74.4%	71.2%	78.2%	79.2%	67.3%
6.グローバル・ビジネスを学ぶカリキュラムの実践	14.8%	26.3%	9.3%	11.7%	5.1%	0.0%	5.5%
7.実習・研修型のトレーニング	52.5%	50.0%	76.0%	66.7%	69.2%	79.2%	67.3%
無回答	0.0%	1.3%	3.1%	4.5%	3.8%	0.0%	0.0%

質問3-2：学部でどのような授業や講義を実施しているか（複数選択）〔図表-16、17〕

- ・グローバル化に関連（選択肢 4 から 6）して、「6. 異文化理解や異文化交流のための実践の機会を設置」が 5 割近い一方で、「4. 外国人に説明できる程度の日本の文化や歴史の知識を修得」、「5. 日本・日本人が海外でどう見られているのかを知る機会を設置」の講義の実施は 1 割台と少ない。
- ・私立では「7. 業務にすぐに役に立つようなスキル、知識の養成を実践」（65.9%）が、国公立（ともに約 40%）に比べて高く、実学志向をうかがわせる。
- ・一方で、国公立は「2. 専攻分野以外にも学問領域を広げ、幅広い視野の養成を実践」が最多である。
- ・医歯薬看護系や理工系が、学問領域の広さよりも専門性に注視する傾向が見て取れる等、学問系統の特質が見られる結果となった。

図表-16：学部でどのような授業や講義を実施しているか（全体・設置者別）

	全体 N=564	国立 N=130	公立 N=58	私立 N=374
1. 専攻分野以前に、大学生の基本的なリテラシーを身に付けることを実践	72.2%	70.0%	67.2%	73.8%
2. 専攻分野以外にも学問領域を広げ、幅広い視野の養成を実践	62.1%	70.8%	74.1%	57.0%
3. 論理的思考力を高めるためのトレーニングを実践	60.3%	63.8%	63.8%	58.8%
4. 外国人に説明できる程度の日本の文化や歴史の知識を修得	14.9%	12.3%	17.2%	15.5%
5. 日本・日本人が海外でどう見られているのかを知る機会を設置	12.2%	12.3%	12.1%	12.3%
6. 異文化理解や異文化交流のための実践の機会を設置	45.2%	48.5%	43.1%	44.4%
7. 業務にすぐに役に立つようなスキル、知識の養成を実践	57.4%	40.8%	41.4%	66.0%
無回答	2.0%	4.6%	1.7%	1.1%

図表-17：学部でどのような授業や講義を実施しているか（系統別）

	文学・語学 N=61	政経法社 N=160	医歯薬看護 N=129	理工学 N=111	教育・心理 N=78	生活 N=24	芸術・体育 N=55
1. 専攻分野以前に、大学生の基本的なリテラシーを身に付けることを実践	77.0%	79.4%	62.8%	72.1%	62.8%	75.0%	63.6%
2. 専攻分野以外にも学問領域を広げ、幅広い視野の養成を実践	77.0%	72.5%	46.5%	61.3%	65.4%	45.8%	76.4%
3. 論理的思考力を高めるためのトレーニングを実践	70.5%	62.5%	69.8%	60.4%	53.8%	66.7%	52.7%
4. 外国人に説明できる程度の日本の文化や歴史の知識を修得	52.5%	17.5%	3.1%	8.1%	20.5%	12.5%	14.5%
5. 日本・日本人が海外でどう見られているのかを知る機会を設置	27.9%	14.4%	10.1%	9.0%	12.8%	12.5%	7.3%
6. 異文化理解や異文化交流のための実践の機会を設置	83.6%	52.5%	34.9%	33.3%	53.8%	29.2%	40.0%
7. 業務にすぐに役に立つようなスキル、知識の養成を実践	39.3%	45.0%	80.6%	43.2%	57.7%	70.8%	54.5%
無回答	0.0%	0.6%	3.9%	4.5%	6.4%	4.2%	1.8%

質問 3-3：学生が実社会を知るための大学の取り組みについて（複数選択）〔図表-18、19〕

- ・「1. 学生の国内でのインターンシップを促進」（75.1%）と「2. 学生のボランティア活動や地域活動への参画を促進」（69.0%）の二つが大学としてよく取り組まれている。

図表-18：学生が実社会を知るために、大学として取り組んでいるもの（全体・設置者別）

	全体 N=564	国立 N=130	公立 N=58	私立 N=374
1. 学生の国内でのインターンシップを促進	75.5%	77.7%	55.2%	78.1%
2. 学生のボランティア活動や地域活動への参画を促進	69.3%	52.3%	67.2%	75.7%
3. 企業・官公庁等の幹部・実務者を講師として招聘し実務を知るチャンスを増大	58.7%	66.9%	55.2%	56.7%
4. 企業・官公庁等の現場の見学などによる実務者との交流の機会を増大	33.3%	36.2%	39.7%	31.6%
5. PBL（課題解決型学習）を導入	53.7%	56.2%	46.6%	54.3%
6. 卒業生を職場訪問し、社会や業務の実態を身近に感じる機会を増大	17.2%	14.6%	24.1%	17.1%
無回答	2.3%	4.6%	3.4%	1.3%

図表-19：学生が実社会を知るために、大学として取り組んでいるもの（系統別）

	文学・語学 N=61	政経法社 N=160	医歯薬看護 N=129	理工学 N=111	教育・心理 N=78	生活 N=24	芸術・体育 N=55
1. 学生の国内でのインターンシップを促進	90.2%	90.0%	38.0%	90.1%	74.4%	75.0%	81.8%
2. 学生のボランティア活動や地域活動への参画を促進	73.8%	73.8%	58.9%	57.7%	93.6%	87.5%	74.5%
3. 企業・官公庁等の幹部・実務者を講師として招聘し実務を知るチャンスを増大	54.1%	73.8%	34.1%	70.3%	46.2%	62.5%	56.4%
4. 企業・官公庁等の現場の見学などによる実務者との交流の機会を増大	19.7%	41.3%	27.9%	41.4%	16.7%	25.0%	21.8%
5. PBL（課題解決型学習）を導入	41.0%	52.5%	62.8%	64.0%	39.7%	37.5%	47.3%
6. 卒業生を職場訪問し、社会や業務の実態を身近に感じる機会を増大	6.6%	12.5%	26.4%	16.2%	15.4%	20.8%	25.5%
無回答	1.6%	0.6%	7.8%	3.6%	1.3%	0.0%	0.0%

質問 3-4：外国語教育への取り組みについて（複数選択）〔図表-20、21〕

- ・「3. ネイティブスピーカーによる英語（外国語）での授業を実施」（64.2%）、「5. 英語以外の外国語科目を導入」（55.0%）がいずれも5割を超えている。
- ・ネイティブスピーカーによる授業の導入は盛んだが、「2. 教育の場で指導に当たる外国人教員を増員」は23.8%にとどまり、いまだ導入の段階にあると言える。
- ・国立では、公私立で20%前後と導入率の低い「1. 専門科目を外国語で履修するカリキュラムを導入」「2. 教育の場で指導に当たる外国人教員を増員」が、それぞれ34.9%、28.7%となっており、若干ではあるがより積極的な傾向がみられる。
- ・文学・語学系で「3. ネイティブスピーカーによる英語（外国語）での授業を実施」（78.7%）、「5. 英語以外の外国語科目を導入」（77.0%）が目立つほか、理工学系でも「4. 英語（外国語）で書く能力の養成を強化」が高めである。

図表-20：外国語教育への取り組みについて（全体／設置者別）

	全体 N=564	国立 N=130	公立 N=58	私立 N=374
1. 専門科目を外国語で履修するカリキュラムを導入	25.0%	34.6%	24.1%	21.7%
2. 教育の場で指導に当たる外国人教員を増員	23.9%	28.5%	19.0%	23.0%
3. ネイティブスピーカーによる英語（外国語）での授業を実施	64.5%	67.7%	56.9%	64.4%
4. 英語（外国語）で文書を書く能力の養成を強化	30.1%	33.8%	43.1%	26.7%
5. 英語以外の外国語科目を導入	55.3%	43.1%	48.3%	60.7%
無回答	9.9%	6.9%	15.5%	10.2%

図表-21：外国語教育への取り組みについて（系統別）

	文学・語学 N=61	政経法社 N=160	医歯薬看護 N=129	理工学 N=111	教育・心理 N=78	生活 N=24	芸術・体育 N=55
1. 専門科目を外国語で履修するカリキュラムを導入	47.5%	28.8%	15.5%	29.7%	14.1%	16.7%	14.5%
2. 教育の場で指導に当たる外国人教員を増員	41.0%	26.3%	14.7%	31.5%	17.9%	16.7%	21.8%
3. ネイティブスピーカーによる英語（外国語）での授業を実施	78.7%	65.6%	68.2%	60.4%	66.7%	45.8%	61.8%
4. 英語（外国語）で文書を書く能力の養成を強化	47.5%	27.5%	27.1%	35.1%	26.9%	16.7%	16.4%
5. 英語以外の外国語科目を導入	77.0%	65.0%	52.7%	43.2%	50.0%	54.2%	56.4%
無回答	3.3%	8.8%	10.9%	14.4%	11.5%	25.0%	12.7%

質問 3-5：留学生への対応について（複数選択）〔図表-22、23〕

- ・留学生の対応は、最も高い選択肢でも 4 割程度であり、対応の遅れが指摘できる。
- ・「2. 国際バカロレア資格取得者の受け入れを拡大」も、その普及が叫ばれているにもかかわらず 7.3%にとどまる。
- ・全体的に低い対応率ではあるが、設置者別にみると、国立が公私立よりも積極的である。
- ・「1. 優秀な留学生受け入れを拡大」は、系統別にみると、理工学系の 50.0%が最高。次いで文学・語学系が 42.6%で続く。

図表-22：留学生への対応について（全体・設置者別）

	全体 N=564	国立 N=130	公立 N=58	私立 N=374
1. 優秀な留学生受け入れを拡大	34.6%	49.2%	25.9%	31.0%
2. 国際バカロレア資格取得者の受け入れを拡大	7.3%	13.8%	5.2%	5.3%
3. 受け入れ留学生の生活に対する日本人学生のメンター制度を導入	25.9%	56.2%	25.9%	15.5%
4. 受け入れ留学生に対する大学独自の経済的補助制度を導入	40.6%	37.7%	17.2%	45.5%
5. 専門科目を日本語以外による講義で履修できる科目を開設	14.5%	26.9%	8.6%	11.2%
6. 日本語習得のためのコースを導入	32.4%	39.2%	22.4%	31.8%
7. その他 具体的に	5.3%	4.6%	6.9%	5.1%
無回答	31.6%	13.8%	46.6%	35.3%

図表-23：留学生への対応について（系統別）

	文学・語学 N=61	政経法社 N=160	医歯薬看護 N=129	理工学 N=111	教育・心理 N=78	生活 N=24	芸術・体育 N=55
1. 優秀な留学生受け入れを拡大	42.6%	33.1%	17.1%	50.5%	29.5%	25.0%	29.1%
2. 国際バカロレア資格取得者の受け入れを拡大	8.2%	8.8%	2.3%	16.2%	2.6%	4.2%	7.3%
3. 受け入れ留学生の生活に対する日本人学生のメンター制度を導入	34.4%	25.6%	3.9%	46.8%	24.4%	20.8%	21.8%
4. 受け入れ留学生に対する大学独自の経済的補助制度を導入	50.8%	60.0%	18.6%	41.4%	24.4%	41.7%	23.6%
5. 専門科目を日本語以外による講義で履修できる科目を開設	24.6%	20.0%	3.1%	19.8%	7.7%	4.2%	3.6%
6. 日本語習得のためのコースを導入	52.5%	46.3%	9.3%	39.6%	29.5%	33.3%	23.6%
7. その他 具体的に	9.8%	8.8%	4.7%	3.6%	1.3%	0.0%	9.1%
無回答	16.4%	16.9%	64.3%	20.7%	44.9%	41.7%	34.5%

質問3-6：学生の海外経験のための制度について（複数選択）〔図表-24、25〕

- ・全体では、学生の留学への取り組みは、「2. 交換留学など海外への留学や研修を推進」（71.8%）が最多で、以下、「7. 海外大学とのさまざまな形での連携・提携を推進」（59.8%）、「3. 海外留学・研修をする学生への大学独自の経済的支援制度を導入」（51.2%）と高い比率で推進されている。
- ・一方で、全体・設置者別ともに、海外企業でのインターンシップへの取り組みや支援（選択肢 4、5、6）は 3 割以下にとどまる。
- ・海外経験の必須化は、現時点ではほとんど実施されていない。

図表-24：学生の海外経験のための制度について（全体・設置者別）

	全体 N=564	国立 N=130	公立 N=58	私立 N=374
1. 交換留学など海外への留学や研修を必須化	2.1%	3.1%	1.7%	1.9%
2. 交換留学など海外への留学や研修を推進	71.8%	82.3%	58.6%	70.1%
3. 海外留学・研修をする学生への大学独自の経済的支援制度を導入	51.2%	58.5%	48.3%	49.2%
4. 海外の企業・官公庁等でインターンシップを経験させる取り組み	20.2%	20.8%	24.1%	19.5%
5. 海外の企業・官公庁等でインターンシップの経験を必須化	0.4%	0.0%	0.0%	0.5%
6. 海外の企業・官公庁等でインターンシップを経験させるための経済的支援制度	6.4%	9.2%	12.1%	4.5%
7. 海外大学とのさまざまな形での連携・提携を推進	59.8%	70.0%	63.8%	55.6%
8. その他 具体的に	2.7%	1.5%	5.2%	2.7%
無回答	11.5%	4.6%	12.1%	13.9%

図表-25：学生の海外経験のための制度について（系統別）

	文学・語学 N=61	政経法社 N=160	医歯薬 看護 N=129	理工学 N=111	教育・心理 N=78	生活 N=24	芸術・体育 N=55
1. 交換留学など海外への留学や研修を必須化	1.6%	2.5%	2.3%	0.9%	2.6%	0.0%	1.8%
2. 交換留学など海外への留学や研修を推進	86.9%	80.6%	48.1%	80.2%	78.2%	62.5%	74.5%
3. 海外留学・研修をする学生への大学独自の経済的支援制度を導入	65.6%	61.3%	40.3%	48.6%	57.7%	33.3%	40.0%
4. 海外の企業・官公庁等でインターンシップを経験させる取り組み	36.1%	28.1%	3.1%	28.8%	9.0%	12.5%	7.3%
5. 海外の企業・官公庁等でインターンシップの経験を必須化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	1.8%
6. 海外の企業・官公庁等でインターンシップ	8.2%	9.4%	1.6%	9.9%	0.0%	4.2%	3.6%
7. 海外大学とのさまざまな形での連携・提携を推進	70.5%	65.0%	51.2%	71.2%	47.4%	58.3%	58.2%
8. その他 具体的に	1.6%	1.9%	3.9%	0.9%	3.8%	4.2%	1.8%
無回答	4.9%	6.9%	24.8%	9.0%	12.8%	20.8%	10.9%

質問4：H27年度入試の実態と、公的・民間資格試験利用について

質問4-1：選抜方法ごとの入学者の比率（単一選択）〔図表-26〕

選抜方法ごとの入学者の比率は以下の図表の通りである。

図表-26：選抜方法ごとの入学者比率（全体・設置者別）

一般入試（大学独自）

	全体 N=563	国立 N=130	公立 N=59	私立 N=373
75%以上	4.3%	3.8%	5.1%	4.3%
50%～75%未満	14.0%	0.0%	6.8%	20.1%
25%～50%未満	25.0%	0.0%	5.1%	37.0%
5%～25%未満	19.2%	0.8%	0.0%	28.7%
5%未満 （無回答含む）	37.5%	95.4%	83.1%	9.9%

一般入試（センター利用有*）

	全体 N=563	国立 N=130	公立 N=59	私立 N=373
75%以上	22.9%	71.5%	52.5%	1.1%
50%～75%未満	11.2%	24.6%	32.2%	3.2%
25%～50%未満	6.2%	1.5%	5.1%	8.0%
5%～25%未満	30.2%	0.0%	1.7%	45.3%
5%未満 （無回答含む）	29.5%	2.3%	8.5%	42.4%

公募推薦入試

	全体 N=563	国立 N=130	公立 N=59	私立 N=373
75%以上	1.1%	0.0%	0.0%	1.6%
50%～75%未満	1.2%	0.8%	0.0%	1.6%
25%～50%未満	18.3%	13.1%	25.4%	19.0%
5%～25%未満	49.6%	60.8%	54.2%	45.0%
5%未満 （無回答含む）	29.8%	25.4%	20.3%	32.7%

指定校推薦入試

	全体 N=563	国立 N=130	公立 N=59	私立 N=373
75%以上	1.2%	0.0%	0.0%	1.9%
50%～75%未満	0.9%	0.0%	0.0%	1.3%
25%～50%未満	17.6%	0.0%	1.7%	26.3%
5%～25%未満	30.9%	0.8%	1.7%	46.1%
5%未満 （無回答含む）	49.4%	99.2%	96.6%	24.4%

AO入試

	全体 N=563	国立 N=130	公立 N=59	私立 N=373
75%以上	1.4%	0.0%	0.0%	2.1%
50%～75%未満	1.1%	0.0%	0.0%	1.6%
25%～50%未満	9.9%	1.5%	3.4%	13.9%
5%～25%未満	29.3%	16.2%	10.2%	37.0%
5%未満 （無回答含む）	58.3%	82.3%	86.4%	45.3%

内部進学（付属校）、関連・同盟校推薦入試

	全体 N=563	国立 N=130	公立 N=59	私立 N=373
75%以上	0.4%	0.0%	0.0%	0.5%
50%～75%未満	1.1%	0.0%	0.0%	1.6%
25%～50%未満	1.6%	0.0%	0.0%	2.4%
5%～25%未満	19.0%	0.0%	1.7%	28.4%
5%未満 （無回答含む）	78.0%	100.0%	98.3%	67.0%

スポーツ推薦入試

	全体 N=563	国立 N=130	公立 N=59	私立 N=373
75%以上	1.1%	0.0%	0.0%	1.6%
50%～75%未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
25%～50%未満	2.1%	0.0%	0.0%	3.2%
5%～25%未満	9.1%	0.0%	1.7%	13.4%
5%未満 （無回答含む）	87.7%	100.0%	98.3%	81.8%

帰国子女入試

	全体 N=563	国立 N=130	公立 N=59	私立 N=373
75%以上	0.2%	0.0%	0.0%	0.3%
50%～75%未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
25%～50%未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5%～25%未満	0.2%	0.0%	1.7%	0.0%
5%未満 （無回答含む）	87.6%	100.0%	98.3%	99.7%

外国人留学生入試

	全体 N=563	国立 N=130	公立 N=59	私立 N=373
75%以上	1.1%	0.0%	0.0%	1.6%
50%～75%未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
25%～50%未満	0.4%	0.8%	0.0%	0.3%
5%～25%未満	4.6%	0.8%	1.7%	6.4%
5%未満 （無回答含む）	94.0%	98.5%	98.3%	91.7%

社会人入試

	全体 N=563	国立 N=130	公立 N=59	私立 N=373
75%以上	0.2%	0.0%	0.0%	0.3%
50%～75%未満	0.2%	0.8%	0.0%	0.0%
25%～50%未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5%～25%未満	1.1%	0.8%	0.0%	1.3%
5%未満 （無回答含む）	98.6%	98.5%	100.0%	98.4%

質問 4-2：選抜試験ごとの評価方法について（複数選択）〔図表-27～35〕

選抜試験ごとの評価方法については、以下の図表の通りである。

図表-27：選抜試験ごとの評価方法・一般入試

	全体 N=557	国立 N=128	公立 N=59	私立 N=369
1.記述式・論述式	70.7%	97.7%	66.1%	62.3%
2.マークシート式	42.9%	2.3%	8.5%	62.6%
3.小論文(日本語)	22.8%	35.9%	44.1%	14.6%
4.小論文(外国語)	2.0%	3.9%	5.1%	0.8%
5.面接	25.7%	38.3%	47.5%	17.6%
6.センター試験利用	68.9%	89.8%	81.4%	59.6%
7.ディスカッション・口頭試問	2.2%	5.5%	3.4%	0.8%
8.実技	9.0%	16.4%	10.2%	6.0%
9.調査書	35.5%	42.2%	39.0%	32.8%
10.公的・民間の資格試験活用	2.5%	2.3%	0.0%	3.0%
11.その他 具体的に	0.9%	2.3%	0.0%	0.5%

図表-28：選抜試験ごとの評価方法・公募推薦

	全体 N=484	国立 N=104	公立 N=51	私立 N=329
1.記述式・論述式	29.5%	16.3%	49.0%	30.7%
2.マークシート式	17.4%	1.0%	5.9%	24.3%
3.小論文(日本語)	58.3%	62.5%	74.5%	54.4%
4.小論文(外国語)	2.5%	3.8%	7.8%	1.2%
5.面接	84.3%	96.2%	88.2%	79.9%
6.センター試験利用	13.8%	50.0%	25.5%	0.6%
7.ディスカッション・口頭試問	11.6%	22.1%	11.8%	8.2%
8.実技	7.2%	11.5%	9.8%	5.5%
9.調査書	80.8%	81.7%	68.6%	82.4%
10.公的・民間の資格試験活用	12.4%	6.7%	5.9%	15.2%
11.その他 具体的に	2.9%	7.7%	2.0%	1.5%

図表-29：選抜試験ごとの評価方法・指定校推薦

	全体 N=345	国立 N=2	公立 N=6	私立 N=337
1.記述式・論述式	13.6%	0.0%	16.7%	13.4%
2.マークシート式	1.7%	0.0%	0.0%	1.5%
3.小論文(日本語)	31.6%	0.0%	33.3%	31.8%
4.小論文(外国語)	1.2%	0.0%	0.0%	1.2%
5.面接	91.0%	50.0%	83.3%	91.4%
6.センター試験利用	0.9%	0.0%	16.7%	0.6%
7.ディスカッション・口頭試問	4.9%	0.0%	0.0%	5.0%
8.実技	2.6%	0.0%	0.0%	2.7%
9.調査書	80.9%	50.0%	100.0%	80.7%
10.公的・民間の資格試験活用	4.1%	0.0%	16.7%	3.9%
11.その他 具体的に	2.3%	0.0%	0.0%	2.4%

図表-30：選抜試験ごとの評価方法・AO 入試

	全体 N=314	国立 N=43	公立 N=14	私立 N=257
1.記述式・論述式	25.8%	27.9%	64.3%	23.3%
2.マークシート式	3.8%	0.0%	0.0%	4.7%
3.小論文(日本語)	50.6%	53.5%	57.1%	49.8%
4.小論文(外国語)	1.3%	7.0%	0.0%	0.4%
5.面接	89.5%	90.7%	92.9%	89.1%
6.センター試験利用	5.7%	34.9%	14.3%	0.4%
7.ディスカッション・口頭試問	27.1%	37.2%	14.3%	26.1%
8.実技	10.2%	7.0%	7.1%	10.9%
9.調査書	67.8%	79.1%	57.1%	66.5%
10.公的・民間の資格試験活用	12.7%	23.3%	14.3%	10.9%
11.その他 具体的に	13.7%	30.2%	0.0%	11.7%

図表-31：選抜試験ごとの評価方法・付属校等入試

N=全数から無回答・無効 回答を除いたもの	全体 N=205	国立 N=4	公立 N=2	私立 N=199
1.記述式・論述式	12.7%	0.0%	100.0%	12.1%
2.マークシート式	7.8%	0.0%	0.0%	8.0%
3.小論文(日本語)	36.1%	75.0%	50.0%	35.2%
4.小論文(外国語)	1.0%	0.0%	50.0%	0.5%
5.面接	79.5%	100.0%	100.0%	78.9%
6.センター試験利用	2.4%	0.0%	0.0%	2.5%
7.ディスカッション・口頭試問	1.5%	0.0%	0.0%	1.5%
8.実技	4.9%	25.0%	0.0%	4.5%
9.調査書	76.6%	75.0%	50.0%	76.9%
10.公的・民間の資格試験活用	4.4%	75.0%	0.0%	3.0%
11.その他 具体的に	5.9%	0.0%	0.0%	6.0%

図表-32：選抜試験ごとの評価方法・スポーツ推薦入試

	全体 N=146	国立 N=1	公立 N=1	私立 N=144
1.記述式・論述式	12.3%	0.0%	100.0%	11.8%
2.マークシート式	2.7%	0.0%	0.0%	2.8%
3.小論文(日本語)	44.5%	100.0%	0.0%	44.4%
4.小論文(外国語)	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5.面接	95.2%	100.0%	100.0%	95.1%
6.センター試験利用	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7.ディスカッション・口頭試問	1.4%	0.0%	0.0%	1.4%
8.実技	32.2%	0.0%	100.0%	31.9%
9.調査書	74.7%	100.0%	100.0%	74.3%
10.公的・民間の資格試験活用	2.1%	0.0%	0.0%	2.1%
11.その他 具体的に	4.8%	0.0%	0.0%	4.9%

図表-33：選抜試験ごとの評価方法・帰国子女入試

	全体 N=227	国立 N=55	公立 N=18	私立 N=154
1.記述式・論述式	35.7%	45.5%	50.0%	30.5%
2.マークシート式	5.7%	0.0%	0.0%	8.4%
3.小論文(日本語)	67.0%	65.5%	88.9%	64.9%
4.小論文(外国語)	5.7%	7.3%	11.1%	4.5%
5.面接	92.5%	96.4%	94.4%	90.9%
6.センター試験利用	0.9%	1.8%	5.6%	0.0%
7.ディスカッション・口頭試問	5.3%	10.9%	11.1%	2.6%
8.実技	3.5%	5.5%	0.0%	3.2%
9.調査書	37.9%	34.5%	27.8%	40.3%
10.公的・民間の資格試験活用	8.8%	14.5%	11.1%	6.5%
11.その他 具体的に	6.6%	7.3%	0.0%	7.1%

図表-34：選抜試験ごとの評価方法・外国人留学生入試

	全体 N=342	国立 N=103	公立 N=27	私立 N=212
1.記述式・論述式	37.1%	41.7%	40.7%	34.4%
2.マークシート式	7.9%	1.0%	0.0%	12.3%
3.小論文(日本語)	49.4%	40.8%	74.1%	50.5%
4.小論文(外国語)	3.8%	1.0%	7.4%	4.7%
5.面接	92.7%	90.3%	96.3%	93.4%
6.センター試験利用	0.3%	1.0%	0.0%	0.0%
7.ディスカッション・口頭試問	6.7%	11.7%	14.8%	3.3%
8.実技	6.7%	9.7%	7.4%	5.2%
9.調査書	25.7%	16.5%	18.5%	31.1%
10.公的・民間の資格試験活用	25.7%	46.6%	29.6%	15.1%
11.その他 具体的に	11.1%	17.5%	7.4%	8.5%

図表-35：選抜試験ごとの評価方法・社会人入試

	全体 N=290	国立 N=34	公立 N=26	私立 N=230
1.記述式・論述式	24.5%	23.5%	34.6%	23.5%
2.マークシート式	2.4%	0.0%	0.0%	3.0%
3.小論文(日本語)	69.3%	79.4%	88.5%	65.7%
4.小論文(外国語)	3.8%	5.9%	11.5%	2.6%
5.面接	93.4%	100.0%	96.2%	92.2%
6.センター試験利用	0.3%	0.0%	0.0%	0.4%
7.ディスカッション・口頭試問	5.5%	14.7%	15.4%	3.0%
8.実技	3.4%	8.8%	3.8%	2.6%
9.調査書	33.4%	44.1%	15.4%	33.9%
10.公的・民間の資格試験活用	3.4%	0.0%	7.7%	3.5%
11.その他 具体的に	7.9%	5.9%	15.4%	7.4%

質問4-3：入試で、どのような公的・民間の資格試験を利用しているか（複数選択）

- a. 英語
- ・英検、TOEIC/TOEIC S&W、TOEFL iBT の利用が目立った。
- b. 英語以外
- ・最も多かったのが「日本留学試験」で、個別記述のあった109学部のうち57学部が回答している。
 - ・日本語能力試験や漢検の回答もあった。
 - ・その他には、英語以外の外国語に関する試験（ドイツ語技能・能力検定、実用イタリア語検定、ロシア語能力検定、実用中国語技能検定、韓国語能力試験等）が多かった。

質問4-4：入試で公的・民間の資格試験を利用していない場合の今後の利用予定

- ・現時点で公的・民間の資格試験を利用していない場合は、今後の導入の予定も乏しいとみられる。
- ・近年度中に実施予定の場合の実施予定年度は「平成28年度」が過半数を占めていた。

質問5：入学（予定）者に対する事前の学力測定実施状況について

質問5-1：入学予定者に対し、正規の講義開始以前に、テストや資格試験による事前の学力測定を実施しているか（単一選択）〔図表-36、37〕

- ・国公立と私立で対照的な結果となった。私立では、6割近くが講義開始前に学力確認を実施しているが、国公立では6割以上で実施しておらず、またその予定もない。

図表-36：入学（予定）者に対し、正規の講義開始以前に、テストあるいは資格試験の準用による学力の確認を実施しているか（全体・設置者別）

	全体 N=567	国立 N=131	公立 N=59	私立 N=375
1. 実施している	48.7%	30.5%	30.5%	58.1%
2. 実施していないが、近年度中に実施予定	1.8%	1.5%	0.0%	2.1%
3. 実施しておらず、予定もない	45.5%	64.9%	67.8%	35.2%
無回答・無効回答	4.2%	3.1%	1.7%	4.5%

図表-37：入学（予定）者に対し、正規の講義開始以前に、テストあるいは資格試験の準用による学力の確認を実施しているか（系統別）

	文学・語学 N=61	政経法社 N=160	医歯薬 看護 N=131	理工学 N=112	教育・心理 N=79	生活 N=24	芸術・体育 N=55
1. 実施している	54.1%	58.1%	42.0%	54.5%	45.6%	50.0%	40.0%
2. 実施していないが、近年度中に実施予定	1.6%	3.1%	0.0%	0.0%	2.5%	0.0%	3.6%
3. 実施しておらず、予定もない	37.7%	37.5%	52.7%	44.6%	49.4%	41.7%	45.5%
無回答・無効回答	6.6%	1.3%	5.3%	0.9%	2.5%	8.3%	10.9%

質問 5-2：入学予定者への事前学力測定の実施の有無（質問 5-1）で、「1. 実施している」「2. 実施していないが、近年度に実施予定」を選択した者に対し、そのテスト内容（複数選択）〔図表-38〕

- ・学力測定の実施に際しては、主に自校作成のテストが用いられている。
- ・民間作成のテストや、公的・民間の資格試験の準用も多くの学部で見られる。
- ・6割近くの学部で学力測定が実施されている私立では、自校作成のテスト使用が半数を超えているが、これは民間作成テストとの併用ではなく、8割以上の学部でどちらか一方だけを用いていることが分かった。

図表-38：入学（予定）者に対し、実施、あるいは実施予定のテスト（全体・設置者別）

	全体 N=286	国立 N=42	公立 N=18	私立 N=226
1. 自校作成のテスト	48.3%	35.7%	38.9%	51.3%
2. 民間作成のテスト	37.8%	11.9%	16.7%	44.2%
3. 公的・民間の資格試験の準用	33.9%	54.8%	50.0%	28.8%
4. その他 具体的に	3.8%	7.1%	5.6%	3.1%

質問5-3：入学（予定）者の事前の学力測定で公的・民間の資格試験の利用している場合、どのような資格試験を利用しているか（複数選択）

a. 英語

- ・最も多かったのが TOEIC/TOEIC S&W で、次いで TOEFL iBT となっていた。英検の利用は少ない。
- ・G-TELP、CASEC といった試験名の回答も見られた。

b. 英語以外

- ・日本語検定や、英語以外の外国語の試験の利用がある。

質問5-4：事前の学力測定での資格試験活用について（質問5-2）「3. 公的・民間の資格試験の準用」を選択しなかった場合、今後の利用予定（単一選択）

- ・今後の活用予定のあるものは極少数に限られた。

質問 6：卒業後の学生の進路について〔図表-39、40〕

<備考>質問 6 については、大学院でも同様の質問をしている。そちらの報告書も参照してほしい。

- ・4 分の 3 以上が就職で、4 分の 1 以下が大学院進学を組み合わせたが多い。
- ・理工学系においては、大学院進学比率が25%以上の学校が5割を超えており、他の系統と比較するとかなり高い。

図表-39：卒業後の学生の進路の比率（全体・設置者別）

	全体 N=516	国立 N=122	公立 N=57	私立 N=337
a就職				
100%～75%以上	74.6%	45.1%	78.9%	84.6%
75%未満～50%以上	15.5%	25.4%	14.0%	12.2%
50%未満～25%以上	5.4%	17.2%	5.3%	1.2%
25%未満(0%含む)	4.5%	12.3%	1.8%	2.1%
b進学(大学院)				
100%～75%以上	1.4%	4.9%	1.8%	0.0%
75%未満～50%以上	5.4%	19.7%	3.5%	0.6%
50%未満～25%以上	7.9%	18.0%	12.3%	3.6%
25%未満(0%含む)	85.3%	57.4%	82.5%	95.9%
cその他				
100%～75%以上	1.7%	3.3%	0.0%	1.5%
75%未満～50%以上	0.4%	0.8%	0.0%	0.3%
50%未満～25%以上	5.6%	0.0%	5.3%	7.7%
25%未満(0%含む)	92.3%	95.9%	94.7%	90.5%

図表-40：卒業後の学生の進路の比率（系統別）

	文学・語学 N=56	政経法社 N=146	医歯薬看護 N=115	理工学 N=99	教育・心理 N=71	生活 N=23	芸術・体育 N=49
a就職							
100%～75%以上	85.7%	87.0%	82.6%	45.5%	88.7%	91.3%	61.2%
75%未満～50%以上	14.3%	11.0%	10.4%	31.3%	11.3%	8.7%	22.4%
50%未満～25%以上	0.0%	0.7%	4.3%	18.2%	0.0%	0.0%	12.2%
25%未満(0%含む)	0.0%	1.4%	2.6%	5.1%	0.0%	0.0%	4.1%
b進学(大学院)							
100%～75%以上	0.0%	0.0%	0.9%	5.6%	0.0%	0.0%	0.0%
75%未満～50%以上	0.0%	1.3%	2.6%	21.3%	0.0%	0.0%	4.1%
50%未満～25%以上	1.8%	0.7%	3.5%	24.1%	0.0%	4.3%	10.2%
25%未満(0%含む)	98.2%	98.0%	93.0%	49.1%	100.0%	95.7%	85.7%
cその他							
100%～75%以上	0.0%	0.0%	6.7%	0.0%	0.0%	0.0%	2.0%
75%未満～50%以上	0.0%	0.0%	1.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50%未満～25%以上	1.8%	6.2%	5.0%	0.9%	1.5%	4.3%	18.4%
25%未満(0%含む)	98.2%	93.8%	86.7%	99.1%	98.5%	95.7%	79.6%

質問7：学生の進学について（単一選択）〔図表-41、42〕

- ・大学院進学者のうち、大学内の大学院への進学が半数以上占める学部が7割を超え、最多。他大学の大学院への進学が半数以上の学部は2.5割ほどであった。
- ・海外大学院への進学者もいるとの回答は1割未満にとどまっている。
- ・理系では内部進学が多く、文系では外部の大学院へ進学する例が比較的多いといえる。

図表-41：学生の進学について（全体・設置者別）

	全体 N=451	国立 N=115	公立 N=50	私立 N=285
1. 大学内の大学院への進学が半数以上、他大学の大学院への進学は半数未満	73.4%	85.2%	66.0%	69.8%
2. 他大学の大学院への進学が半数以上、大学内の大学院への進学は半数未満	26.2%	12.2%	34.0%	30.5%
3. 海外の大学院への進学者もいる	7.1%	9.6%	4.0%	6.7%

図表-42：学生の進学について（系統別）

	文学・語学 N=52	政経法社 N=134	医歯薬看護 N=86	理工学 N=106	教育・心理 N=58	生活 N=24	芸術・体育 N=43
1. 大学内の大学院への進学が半数以上、他大学の大学院への進学は半数未満	69.2%	52.2%	81.4%	95.3%	69.0%	75.0%	79.1%
2. 他大学の大学院への進学が半数以上、大学内の大学院への進学は半数未満	28.8%	46.3%	19.8%	4.7%	31.0%	25.0%	20.9%
3. 海外の大学院への進学者もいる	9.6%	11.2%	2.3%	7.5%	3.4%	0.0%	7.0%

「高等教育機関が求める人材像」に関する実態調査 報告書<<短期大学編>>

1. 実態調査の概要と回答学科の属性

調査概要

- ・調査実施期日：2015 年 11 月発送、12 月 2 日締切
- ・調査票発送対象：全国の短期大学の 627 学科
- ・回答数(回答率)：130 学科 (20.7%)〔図表-1〕
(備考：同時に 4 年制大学の学科、大学院の研究科を対象とする調査を実施)

図表-1：設置者別発送学科数

(N=627)			
	設置者	発送数	%
1	国立	--	--
2	公立	40	6.4%
3	私立	587	93.6%
4	その他	--	--

回答学科の属性

●回答学科の設置者別集計〔図表-2〕

設置者別の回答学科数などは図表-2 の通り。

設置者別の回収率は、公立が 22.5%、私立が 20.6%である。

図表-2：設置者別回答学科数と本分析における比率 (N=130)

() 内は設置者別回収率			
	設置者	回答数	(回収率)
1	国立	--	--
2	公立	9	6.9% (22.5%)
3	私立	121	93.1% (20.6%)
4	その他	--	--

●学問系統別集計〔図表-3、4〕

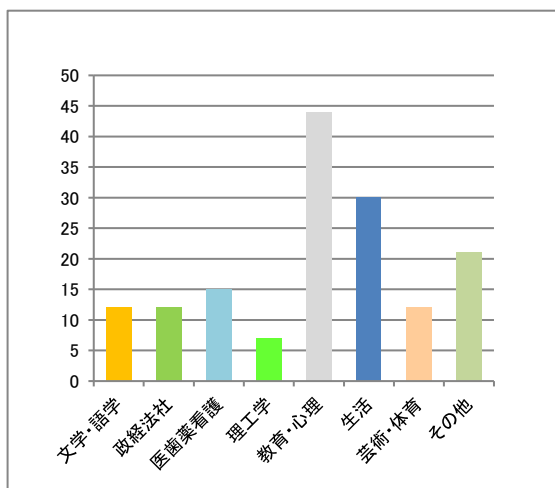
調査時においては、18 の学問系統に区分したが、分析の段階でさらに 8 系統にまとめている。8 系統中で回答研究科が最も多かったのは「教育・心理」の 44 学科

(33.8%) で、次いで「生活」の 30 学科 (23.1%)、「その他」の 21 学科 (16.2%)、「医歯薬看護」の 15 学科 (11.5%) と続く。

図表-4：学問系統による回答学科数 (N=567)

1.文学	8	6.2%	文学・語学	12	9.2%
2.語学	7	5.4%			
3.法学・政治学	0	0.0%	政経法社	12	9.2%
4.経済・経営・商学	8	6.2%			
5.社会学	4	3.1%			
6.国際関係学	0	0.0%	医歯薬看護	15	11.5%
7.看護・医療学	11	8.5%			
8.医・歯学	6	4.6%			
9.薬学	0	0.0%	理工学	7	5.4%
10.理学	0	0.0%			
11.工学	5	3.8%			
12.農・水産学	2	1.5%	教育・心理	44	33.8%
13.教員養成・教育学	41	31.5%			
14.心理学	3	2.3%			
15.生活科学	30	23.1%	生活	30	23.1%
16.芸術	9	6.9%			
17.体育・健康科学	3	2.3%	芸術・体育	12	9.2%
18.その他	21	16.2%			

表-3：8 系統の回答学部数



太字 は選択率が最大の項目、**太字** は 2 番目と 3 番目の項目

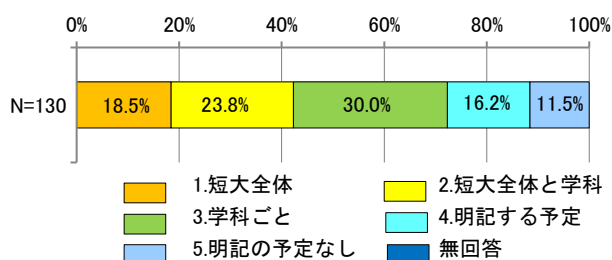
2. 各質問の集計結果と傾向分析

質問1：入学者選抜試験について

質問1-1：高等学校段階で習得すべき学習内容・水準をアドミッション・ポリシーに明記しているか（単一選択）〔図表-5〕

図表-5：アドミッション・ポリシーの記載

- ・ 7 割の学科が何らかの形で記載しているが、明記していない学科（選択肢 4、5）の 27.7%は、大学（18.7%）や大学院（1.4%）に比べると多い。

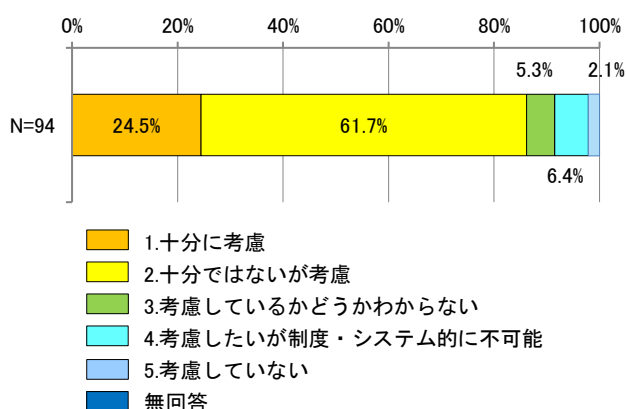


質問1-2：アドミッション・ポリシーに高校で習得すべき学習内容・水準を記載（質問1-1で選択肢1、2、3のいずれかを回答）している学科に対して、記載している「必要とされる学力」を、入試で測定できるよう考慮しているか（単一選択）

〔図表-6〕

- ・ 考慮している学科が9割に近いことから、ほとんどの学科で、アドミッション・ポリシーに記載した高校までで習得すべき学力基準を入試で測定できるようにしている。

図表-6：アドミッション・ポリシーに記載された必要とされる学力を、入試で測定できるように考慮しているか



質問1-3：入試において、どのような能力を評価すべきか（複数選択）〔図表-7、8〕

- ・ 「1. 基礎学力」の測定を非常に重視していることが分かる。「3. 日本語で正しく表現（書く、話す）する力」「4. 日本語を正しく理解（読む、聞く）する力」も、ほとんどの入試で7割を超える。
- ・ 選択率の低いものとして「5. 他者を説得する能力」「6. 他者と交渉する能力」が挙げられる。
- ・ 短大では各種の推薦入試の利用が目立つ。
- ・ A0入試では「7. 会話において相手の話をよく聞く」「20. 主体性・自主性」が、その他の特別入試（帰国子女、外国人留学生、社会人）でもそれぞれの特性がよく表れた結果となった。

図表-7：高校までに培われたどのような能力を評価すべきか（全体）

	一般入試 N=130	公募推薦 N=125	指定校推薦 N=115	AO入試 N=95	付属校等 N=61	スポーツ推薦 N=24	帰国子女 N=48	外国人留学生 N=55	社会人 N=107
1.基礎学力	97.7%	84.0%	82.6%	66.3%	85.2%	79.2%	75.0%	72.7%	73.8%
2.学問分野にこだわらない広い視野	22.3%	30.4%	29.6%	36.8%	23.0%	33.3%	37.5%	30.9%	47.7%
3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力	77.7%	80.0%	79.1%	69.5%	78.7%	66.7%	75.0%	87.3%	71.0%
4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	76.9%	72.8%	68.7%	65.3%	72.1%	62.5%	70.8%	83.6%	63.6%
5.他者を説得する能力	8.5%	17.6%	15.7%	20.0%	9.8%	0.0%	6.3%	7.3%	16.8%
6.他者と交渉する能力	7.7%	13.6%	13.0%	20.0%	6.6%	0.0%	6.3%	5.5%	15.0%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	40.0%	71.2%	70.4%	69.5%	57.4%	66.7%	54.2%	56.4%	65.4%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	22.3%	29.6%	29.6%	31.6%	24.6%	20.8%	37.5%	45.5%	39.3%
9.英語などの外国語によるコミュニケーション能力	20.0%	7.2%	5.2%	6.3%	3.3%	0.0%	25.0%	21.8%	10.3%
10.論理的思考力	52.3%	46.4%	44.3%	46.3%	42.6%	29.2%	31.3%	25.5%	49.5%
11.創造的思考力	20.8%	25.6%	24.3%	40.0%	19.7%	20.8%	25.0%	20.0%	29.9%
12.客観的・批判的思考力	20.8%	24.8%	23.5%	25.3%	23.0%	16.7%	18.8%	16.4%	33.6%
13.問題発見・解決力	27.7%	30.4%	31.3%	36.8%	26.2%	20.8%	27.1%	20.0%	33.6%
14.情報収集・分析・活用力	18.5%	13.6%	16.5%	21.1%	9.8%	12.5%	10.4%	10.9%	20.6%
15.洞察力・状況判断力	20.0%	20.8%	21.7%	22.1%	19.7%	20.8%	20.8%	18.2%	33.6%
16.行動力・実行力	26.2%	44.8%	43.5%	57.9%	36.1%	45.8%	41.7%	29.1%	44.9%
17.精神力・忍耐力	20.8%	33.6%	37.4%	36.8%	29.5%	50.0%	31.3%	32.7%	33.6%
18.柔軟性・協調性	33.8%	54.4%	56.5%	58.9%	44.3%	58.3%	45.8%	36.4%	53.3%
19.勤勉性・誠実性	44.6%	60.8%	67.8%	63.2%	52.5%	62.5%	50.0%	47.3%	57.9%
20.主体性・自主性	33.1%	55.2%	63.5%	69.5%	50.8%	66.7%	43.8%	34.5%	56.1%
21.健康・生活管理能力	44.6%	55.2%	59.1%	58.9%	52.5%	58.3%	56.3%	56.4%	58.9%
22.その他 具体的に	3.1%	4.8%	0.9%	3.2%	6.6%	4.2%	4.2%	5.5%	3.7%

図表-8：高校までに培われたどのような能力を評価すべきか（系統別）

●一般入試	文学・語学 N=12	政経法社 N=11	医歯薬看護 N=17	理工学 N=7	教育・心理 N=44	生活 N=31	芸術・体育 N=12
1.基礎学力	91.7%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	96.8%	91.7%
2.学問分野にこだわらない広い視野	16.7%	36.4%	29.4%	14.3%	13.6%	22.6%	16.7%
3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力	83.3%	90.9%	70.6%	57.1%	79.5%	83.9%	66.7%
4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	91.7%	81.8%	70.6%	57.1%	81.8%	77.4%	66.7%
5.他者を説得する能力	8.3%	18.2%	11.8%	0.0%	6.8%	3.2%	16.7%
6.他者と交渉する能力	8.3%	0.0%	5.9%	0.0%	11.4%	6.5%	16.7%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	33.3%	45.5%	47.1%	28.6%	45.5%	38.7%	50.0%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	8.3%	36.4%	23.5%	14.3%	13.6%	22.6%	41.7%
9.英語などの外国語によるコミュニケーション能力	41.7%	0.0%	17.6%	0.0%	13.6%	25.8%	16.7%
10.論理的思考力	33.3%	72.7%	35.3%	71.4%	54.5%	51.6%	50.0%
11.創造的思考力	16.7%	9.1%	17.6%	0.0%	20.5%	16.1%	33.3%
12.客観的・批判的思考力	25.0%	18.2%	29.4%	0.0%	15.9%	19.4%	8.3%
13.問題発見・解決力	25.0%	36.4%	35.3%	28.6%	25.0%	25.8%	25.0%
14.情報収集・分析・活用力	16.7%	27.3%	23.5%	14.3%	18.2%	25.8%	25.0%
15.洞察力・状況判断力	0.0%	9.1%	29.4%	0.0%	25.0%	19.4%	8.3%
16.行動力・実行力	16.7%	9.1%	52.9%	14.3%	20.5%	25.8%	33.3%
17.精神力・忍耐力	8.3%	9.1%	41.2%	14.3%	13.6%	22.6%	33.3%
18.柔軟性・協調性	16.7%	27.3%	52.9%	14.3%	31.8%	32.3%	50.0%
19.勤勉性・誠実性	16.7%	27.3%	76.5%	28.6%	45.5%	45.2%	50.0%
20.主体性・自主性	25.0%	27.3%	47.1%	28.6%	34.1%	32.3%	58.3%
21.健康・生活管理能力	25.0%	27.3%	82.4%	28.6%	38.6%	35.5%	41.7%
22.その他 具体的に	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	3.2%	8.3%

●公募推薦

	文学・語学 N=11	政経法社 N=9	医歯薬看護 N=17	理工学 N=7	教育・心理 N=42	生活 N=28	芸術・体育 N=11
1.基礎学力	72.7%	88.9%	94.1%	71.4%	81.0%	85.7%	90.9%
2.学問分野にこだわらない広い視野	18.2%	66.7%	29.4%	14.3%	26.2%	25.0%	18.2%
3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力	90.9%	77.8%	76.5%	71.4%	83.3%	82.1%	54.5%
4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	100.0%	77.8%	64.7%	71.4%	78.6%	75.0%	45.5%
5.他者を説得する能力	9.1%	22.2%	17.6%	0.0%	23.8%	14.3%	18.2%
6.他者と交渉する能力	18.2%	11.1%	23.5%	0.0%	16.7%	10.7%	18.2%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	45.5%	77.8%	76.5%	42.9%	78.6%	75.0%	54.5%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	9.1%	33.3%	41.2%	14.3%	28.6%	25.0%	45.5%
9.英語などの外国語によるコミュニケーション能力	36.4%	0.0%	5.9%	0.0%	2.4%	7.1%	0.0%
10.論理的思考力	36.4%	66.7%	47.1%	57.1%	50.0%	42.9%	36.4%
11.創造的思考力	27.3%	11.1%	29.4%	0.0%	21.4%	25.0%	36.4%
12.客観的・批判的思考力	18.2%	22.2%	35.3%	14.3%	23.8%	25.0%	9.1%
13.問題発見・解決力	27.3%	22.2%	35.3%	28.6%	23.8%	25.0%	27.3%
14.情報収集・分析・活用力	18.2%	11.1%	17.6%	14.3%	9.5%	17.9%	18.2%
15.洞察力・状況判断力	9.1%	0.0%	35.3%	0.0%	23.8%	17.9%	9.1%
16.行動力・実行力	36.4%	55.6%	52.9%	28.6%	45.2%	39.3%	45.5%
17.精神力・忍耐力	9.1%	33.3%	47.1%	57.1%	28.6%	28.6%	36.4%
18.柔軟性・協調性	27.3%	44.4%	76.5%	42.9%	61.9%	39.3%	54.5%
19.勤勉性・誠実性	27.3%	66.7%	94.1%	57.1%	64.3%	57.1%	45.5%
20.主体性・自主性	36.4%	66.7%	58.8%	57.1%	54.8%	46.4%	63.6%
21.健康・生活管理能力	27.3%	44.4%	76.5%	42.9%	52.4%	46.4%	45.5%

質問2：入学後の学生の育成状況について

質問2-1：入学時に不足しており、入学後に培うべきと思われる能力（複数選択）〔図表-9〕

- ・質問 1-3 で入試時に重視して測定していることが明らかになった「3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力」は、8割以上の学科が不足していると回答している。
- ・同様に、「1.基礎学力」、「4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力」も8割近い。
- ・「13.問題発見・解決力」も7割を超えている。

図表-9：入学後に培うべきと思われる能力（全体・系統別）

	全体 N=130	文学・ 語学 N=12	政経 法社 N=11	医歯薬 看護 N=17	理工学 N=7	教育 心理 N=44	生活 N=31	芸術・ 体育 N=12
1.基礎学力	77.7%	83.3%	90.9%	88.2%	71.4%	70.5%	77.4%	66.7%
2.学問分野にこだわらない広い視野	49.2%	50.0%	54.5%	35.3%	28.6%	43.2%	58.1%	41.7%
3.日本語で正しく表現（書く、話す）する力	83.1%	100.0%	90.9%	82.4%	85.7%	86.4%	74.2%	83.3%
4.日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	76.2%	83.3%	81.8%	82.4%	85.7%	72.7%	74.2%	58.3%
5.他者を説得する能力	26.2%	33.3%	36.4%	35.3%	0.0%	22.7%	22.6%	16.7%
6.他者と交渉する能力	40.8%	58.3%	63.6%	58.8%	28.6%	36.4%	41.9%	33.3%
7.会話において相手の話をよく聞く能力	61.5%	58.3%	72.7%	47.1%	42.9%	65.9%	58.1%	58.3%
8.異なる価値観を受容し理解しようとする能力	50.0%	41.7%	72.7%	52.9%	14.3%	50.0%	45.2%	50.0%
9.英語などの外国語によるコミュニケーション能力	30.8%	41.7%	54.5%	29.4%	14.3%	15.9%	32.3%	25.0%
10.論理的思考力	61.5%	50.0%	63.6%	58.8%	71.4%	56.8%	58.1%	58.3%
11.創造的思考力	46.9%	50.0%	63.6%	47.1%	14.3%	40.9%	41.9%	58.3%
12.客観的・批判的思考力	45.4%	25.0%	36.4%	58.8%	28.6%	38.6%	51.6%	25.0%
13.問題発見・解決力	75.4%	50.0%	81.8%	82.4%	57.1%	72.7%	74.2%	66.7%
14.情報収集・分析・活用力	55.4%	33.3%	54.5%	70.6%	57.1%	47.7%	61.3%	41.7%
15.洞察力・状況判断力	51.5%	16.7%	45.5%	58.8%	57.1%	59.1%	45.2%	41.7%
16.行動力・実行力	62.3%	33.3%	54.5%	64.7%	71.4%	63.6%	64.5%	50.0%
17.精神力・忍耐力	46.9%	41.7%	36.4%	58.8%	42.9%	47.7%	45.2%	41.7%
18.柔軟性・協調性	53.1%	41.7%	45.5%	64.7%	42.9%	59.1%	48.4%	8.3%
19.勤勉性・誠実性	44.6%	16.7%	45.5%	58.8%	71.4%	38.6%	41.9%	41.7%
20.主体性・自主性	63.1%	41.7%	54.5%	64.7%	71.4%	63.6%	67.7%	58.3%
21.健康・生活管理能力	50.0%	25.0%	36.4%	52.9%	42.9%	52.3%	54.8%	25.0%
22.その他 具体的に	4.6%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.5%	3.2%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 2-2：短大でどの能力をどの程度発展・向上させることができたと思うか

(単一選択)〔図表-10、11〕

- ・多くの項目において、ある程度の発達・向上ができているとの回答が目立つ。
- ・発展・向上に課題が残るのは、「5. 他者を説得する能力」や「6. 他者と交渉する能力」、「9. 英語などの外国語によるコミュニケーション能力」である。特に、外国語によるコミュニケーション能力への教育課題は大学と共通している。

図表-10：短大での教育を通じて、どのような能力をどの程度、発展・向上できていると思うか（全体）

N=130	入試時に不足	十分に発展・向上	ある程度、発展・向上	あまり発展・向上できていない	ほとんど発展・向上できていない
1. 基礎学力	77.7%	7.7%	73.8%	16.2%	1.5%
2. 学問分野にこだわらない広い視野	49.2%	6.9%	50.0%	36.9%	2.3%
3. 日本語で正しく表現（書く、話す）する力	83.1%	7.7%	81.5%	8.5%	0.0%
4. 日本語を正しく理解（読む、聞く）する力	76.2%	5.4%	87.7%	5.4%	0.0%
5. 他者を説得する能力	26.2%	7.7%	31.5%	46.2%	9.2%
6. 他者と交渉する能力	40.8%	7.7%	35.4%	43.8%	8.5%
7. 会話において相手の話をよく聞く能力	61.5%	13.8%	66.2%	16.2%	0.8%
8. 異なる価値観を受容し理解しようとする能力	50.0%	10.8%	58.5%	24.6%	0.8%
9. 英語などの外国語によるコミュニケーション能力	30.8%	1.5%	23.8%	41.5%	28.5%
10. 論理的思考力	61.5%	3.8%	56.9%	33.1%	4.6%
11. 創造的思考力	46.9%	6.2%	53.8%	33.1%	3.1%
12. 客観的・批判的思考力	45.4%	1.5%	46.2%	43.8%	3.8%
13. 問題発見・解決力	75.4%	6.2%	60.8%	29.2%	2.3%
14. 情報収集・分析・活用力	55.4%	8.5%	62.3%	24.6%	2.3%
15. 洞察力・状況判断力	51.5%	3.1%	53.1%	36.9%	2.3%
16. 行動力・実行力	62.3%	17.7%	65.4%	13.1%	0.0%
17. 精神力・忍耐力	46.9%	14.6%	60.0%	21.5%	1.5%
18. 柔軟性・協調性	53.1%	15.4%	75.4%	6.2%	0.8%
19. 勤勉性・誠実性	44.6%	18.5%	70.0%	8.5%	1.5%
20. 主体性・自主性	63.1%	12.3%	63.1%	21.5%	1.5%
21. 健康・生活管理能力	50.0%	17.7%	65.4%	12.3%	1.5%
22. その他 具体的に	4.6%	2.3%	2.3%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

図表-11：短大での教育を通じて、どのような能力をどの程度、発展・向上することができていると思うか（系統別）

	文学・語学 N=12		政経法社 N=11		医歯薬看護 N=17		理工学 N=7	
	十分に +ある 程度、発 展・向上	あまり+ ほとんど 発展・向 上できて いない	十分に+ ある程 度、発 展・向上	あまり+ ほとんど 発展・向 上できて いない	十分に+ ある程 度、発 展・向上	あまり+ ほとんど 発展・向 上できて いない	十分に+ ある程 度、発 展・向上	あまり+ ほとんど 発展・向 上できて いない
1. 基礎学力	83.3%	16.7%	72.7%	27.3%	82.4%	17.6%	85.7%	14.3%
2. 学問分野にこだわらない広い視野	50.0%	41.7%	72.7%	27.3%	41.2%	52.9%	57.1%	28.6%
3. 日本語で正しく表現(書く、話す)する力	91.7%	8.3%	100.0%	0.0%	82.4%	11.8%	85.7%	14.3%
4. 日本語を正しく理解(読む、聞く)する力	91.7%	8.3%	100.0%	0.0%	82.4%	11.8%	85.7%	14.3%
5. 他者を説得する能力	25.0%	58.3%	36.4%	63.6%	29.4%	58.8%	42.9%	57.1%
6. 他者と交渉する能力	25.0%	66.7%	45.5%	54.5%	35.3%	52.9%	42.9%	42.9%
7. 会話において相手の話をよく聞く能力	66.7%	25.0%	90.9%	18.2%	82.4%	11.8%	85.7%	14.3%
8. 異なる価値観を受容し理解しようとする能力	75.0%	16.7%	81.8%	18.2%	70.6%	29.4%	28.6%	57.1%
9. 英語などの外国語によるコミュニケーション能力	41.7%	50.0%	45.5%	45.5%	11.8%	82.4%	14.3%	42.9%
10. 論理的思考力	58.3%	41.7%	81.8%	27.3%	58.8%	41.2%	57.1%	42.9%
11. 創造的思考力	58.3%	33.3%	63.6%	36.4%	35.3%	58.8%	42.9%	57.1%
12. 客観的・批判的思考力	33.3%	50.0%	63.6%	27.3%	58.8%	41.2%	42.9%	57.1%
13. 問題発見・解決力	41.7%	58.3%	81.8%	18.2%	88.2%	11.8%	42.9%	57.1%
14. 情報収集・分析・活用力	58.3%	41.7%	90.9%	9.1%	82.4%	17.6%	71.4%	28.6%
15. 洞察力・状況判断力	33.3%	50.0%	45.5%	54.5%	70.6%	29.4%	57.1%	42.9%
16. 行動力・実行力	66.7%	25.0%	72.7%	27.3%	76.5%	17.6%	85.7%	14.3%
17. 精神力・忍耐力	50.0%	41.7%	72.7%	27.3%	76.5%	23.5%	100.0%	0.0%
18. 柔軟性・協調性	66.7%	25.0%	90.9%	9.1%	88.2%	11.8%	100.0%	0.0%
19. 勤勉性・誠実性	83.3%	8.3%	100.0%	0.0%	94.1%	5.9%	100.0%	0.0%
20. 主体性・自主性	58.3%	41.7%	72.7%	27.3%	70.6%	29.4%	71.4%	28.6%
21. 健康・生活管理能力	66.7%	25.0%	72.7%	36.4%	94.1%	5.9%	57.1%	42.9%
22.その他 具体的に	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

	教育・心理 N=44		生活 N=31		芸術・体育 N=12	
	十分に +ある 程度、発 展・向 上	あまり+ ほとんど 発展・向 上できて いない	十分に +ある程 度、発 展・向上	あまり+ ほとんど 発展・向 上できて いない	十分に +ある程 度、発 展・向上	あまり+ ほとんど 発展・向 上できて いない
1. 基礎学力	79.5%	20.5%	77.4%	22.6%	58.3%	33.3%
2. 学問分野にこだわらない広い視野	40.9%	54.5%	64.5%	32.3%	58.3%	33.3%
3. 日本語で正しく表現(書く、話す)する力	88.6%	6.8%	90.3%	6.5%	83.3%	16.7%
4. 日本語を正しく理解(読む、聞く)する力	95.5%	4.5%	100.0%	0.0%	83.3%	8.3%
5. 他者を説得する能力	36.4%	59.1%	29.0%	67.7%	50.0%	41.7%
6. 他者と交渉する能力	45.5%	50.0%	38.7%	58.1%	41.7%	50.0%
7. 会話において相手の話をよく聞く能力	88.6%	9.1%	74.2%	25.8%	58.3%	33.3%
8. 異なる価値観を受容し理解しようとする能力	75.0%	18.2%	67.7%	25.8%	58.3%	33.3%
9. 英語などの外国語によるコミュニケーション能力	15.9%	77.3%	22.6%	74.2%	16.7%	75.0%
10. 論理的思考力	52.3%	45.5%	67.7%	32.3%	41.7%	50.0%
11. 創造的思考力	70.5%	25.0%	54.8%	41.9%	58.3%	33.3%
12. 客観的・批判的思考力	38.6%	54.5%	48.4%	48.4%	58.3%	33.3%
13. 問題発見・解決力	68.2%	27.3%	61.3%	35.5%	58.3%	41.7%
14. 情報収集・分析・活用力	56.8%	38.6%	80.6%	16.1%	66.7%	25.0%
15. 洞察力・状況判断力	54.5%	40.9%	51.6%	41.9%	41.7%	50.0%
16. 行動力・実行力	86.4%	9.1%	90.3%	6.5%	75.0%	16.7%
17. 精神力・忍耐力	72.7%	25.0%	80.6%	16.1%	58.3%	33.3%
18. 柔軟性・協調性	93.2%	4.5%	90.3%	6.5%	83.3%	8.3%
19. 勤勉性・誠実性	95.5%	4.5%	87.1%	12.9%	58.3%	33.3%
20. 主体性・自主性	79.5%	18.2%	71.0%	25.8%	66.7%	25.0%
21. 健康・生活管理能力	88.6%	9.1%	80.6%	12.9%	50.0%	33.3%
22.その他 具体的に	6.8%	0.0%	6.5%	0.0%	0.0%	0.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0	0

質問3：学科の教育内容について

質問3-1：学科で目指している教育システムについて（複数選択）〔図表-12〕

- ・選択率が高いものから順に、「5. 学生の思考力、人間性、意欲、視野の広さなどを伸ばすカリキュラムの実践」（83.1%）、「7. 実習・研修型のトレーニング」（80.8%）、「3. 授業におけるグループワークの機会の増加」（75.4%）「1. 教員と学生との間で質疑や議論がなされる授業の実践」（68.5%）、「2. 学生同士の議論が頻繁に積極的に行われる授業の実践」（51.5%）で、7つの選択肢のうち5つまでが5割を超えている。このことから、全体的に実践を重視した教育システムであることが分かる。
- ・「4. 単位認定を厳格にして、安易に卒業させない」（29.2%）「6. グローバル・ビジネスを学ぶカリキュラムの実践」（6.2%）は少数にとどまった。この傾向は、大学と共通している。

図表-12：学科で目指している教育システムについて（全体・系統別）

	全体 N=130	文学・語学 N=12	政経法社 N=11	医歯薬看護 N=17	理工学 N=7	教育・心理 N=44	生活 N=31	芸術・体育 N=12
1. 教員と学生との間で質疑や議論がなされる授業の実践	68.5%	75.0%	90.9%	64.7%	57.1%	63.6%	67.7%	66.7%
2. 学生同士の議論が頻繁に積極的に行われる授業の実践	51.5%	58.3%	63.6%	47.1%	42.9%	45.5%	48.4%	33.3%
3. 授業におけるグループワークの機会の増加	75.4%	66.7%	81.8%	70.6%	42.9%	81.8%	83.9%	83.3%
4. 単位認定を厳格にして、安易に卒業させない	29.2%	8.3%	45.5%	35.3%	42.9%	22.7%	22.6%	16.7%
5. 学生の思考力、人間性、意欲、視野の広さなどを伸ばすカリキュラムの実践	83.1%	83.3%	100.0%	82.4%	85.7%	79.5%	80.6%	83.3%
6. グローバル・ビジネスを学ぶカリキュラムの実践	6.2%	16.7%	18.2%	0.0%	0.0%	0.0%	9.7%	8.3%
7. 実習・研修型のトレーニング	80.8%	58.3%	100.0%	100.0%	85.7%	84.1%	67.7%	75.0%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問3-2：学科でどのような授業や講義を実施しているか（複数選択）〔図表-13〕

- ・「7. 業務にすぐに役立つようなスキル、知識の養成を実践」（85.4%）が最多であり、大学の57.4%と比べても高く、短大ではより仕事に直結する実践的な授業や講義を実施していることがうかがえる。
- ・特に、業務に直結する技術を学ぶ医歯薬看護系と、幼児教育専攻・保育専攻が多い教育・心理系で、より実践志向の傾向が顕著である。
- ・グローバル化に関連し、「4. 外国人に説明できる程度の日本の文化や歴史の知識を修得」（8.5%）、「5. 日本・日本人が海外でどう見られているのを知る機会を設置」（6.9%）はいずれも1割未満である。大学では45.2%に達していた「6. 異文化理解や異文化交流のための実践の機会を設置」も21.5%と低かった。

図表-13：学科でどのような授業や講義を実施しているか（全体・系統別）

	全体 N=130	文学・語学 N=12	政経法社 N=11	医歯薬看護 N=17	理工学 N=7	教育・心理 N=44	生活 N=31	芸術・体育 N=12
1. 専攻分野以前に、大学生の基本的なリテラシーを身に付けることを実践	67.7%	91.7%	100.0%	52.9%	42.9%	61.4%	67.7%	83.3%
2. 専攻分野以外にも学問領域を広げ、幅広い視野の養成を実践	40.0%	58.3%	45.5%	23.5%	42.9%	27.3%	45.2%	58.3%
3. 論理的思考力を高めるためのトレーニングを実践	32.3%	33.3%	54.5%	41.2%	28.6%	18.2%	35.5%	33.3%
4. 外国人に説明できる程度の日本の文化や歴史の知識を修得	8.5%	33.3%	9.1%	5.9%	0.0%	2.3%	3.2%	8.3%
5. 日本・日本人が海外でどう見られているのを知る機会を設置	6.9%	25.0%	18.2%	0.0%	0.0%	4.5%	3.2%	0.0%
6. 異文化理解や異文化交流のための実践の機会を設置	21.5%	41.7%	36.4%	0.0%	14.3%	11.4%	16.1%	16.7%
7. 業務にすぐに役に立つようなスキル、知識の養成を実践	85.4%	50.0%	81.8%	100.0%	100.0%	88.6%	77.4%	58.3%
無回答	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

質問 3-3：学生が実社会を知るための短大の取り組みについて（複数選択）〔図表-14〕

- ・「2. 学生のボランティア活動や地域活動への参画を促進」（87.7%）が最多。「1. 学生の国内でのインターンシップを促進」（62.3%）と「3. 企業・官公庁等の幹部・実務者を講師として招聘し実務を知るチャンスを増大」（50.8%）までが5割を超えた。
- ・「2. 学生のボランティア活動や地域活動への参画を促進」は、教育・心理系と生活系でいずれも9割を超えており、特に高い実施率となっている。大学の系統別でも同様の傾向が見られ、教育・心理系と生活系は、より地域に根付いた活動をしていると言えよう。

図表-14：学生が実社会を知るために、短大として取り組んでいるもの（全体・系統別）

	全体 N=130	文学・語学 N=12	政経法社 N=11	医歯薬看護 N=17	理工学 N=7	教育・心理 N=44	生活 N=31	芸術・体育 N=12
1. 学生の国内でのインターンシップを促進	62.3%	75.0%	100.0%	35.3%	85.7%	54.5%	64.5%	75.0%
2. 学生のボランティア活動や地域活動への参画を促進	87.7%	66.7%	81.8%	88.2%	57.1%	93.2%	96.8%	75.0%
3. 企業・官公庁等の幹部・実務者を講師として招聘し実務を知るチャンスを増大	50.8%	50.0%	72.7%	47.1%	57.1%	40.9%	54.8%	58.3%
4. 企業・官公庁等の現場の見学などによる実務者との交流の機会を増大	26.9%	16.7%	36.4%	29.4%	42.9%	22.7%	29.0%	16.7%
5. PBL（課題解決型学習）を導入	23.1%	8.3%	45.5%	23.5%	14.3%	11.4%	29.0%	25.0%
6. 卒業生を職場訪問し、社会や業務の実態を身近に感じる機会を増大	19.2%	0.0%	18.2%	23.5%	14.3%	20.5%	6.5%	16.7%
無回答	1.5%	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%

質問 3-4：外国語教育への取り組みについて（複数選択）〔図表-15〕

- ・最も多かったのは「5. 英語以外の外国語科目を導入」で4割。「3. ネイティブスピーカーによる英語（外国語）での授業を実施」（38.5%）がそれに次ぐ。

図表-15：外国語教育への取り組みについて（全体・系統別）

	全体 N=130	文学・語学 N=12	政経法社 N=11	医歯薬看護 N=17	理工学 N=7	教育・心理 N=44	生活 N=31	芸術・体育 N=12
1. 専門科目を外国語で履修するカリキュラムを導入	4.6%	8.3%	9.1%	0.0%	0.0%	4.5%	3.2%	16.7%
2. 教育の場で指導に当たる外国教員を増員	7.7%	25.0%	9.1%	0.0%	0.0%	4.5%	6.5%	16.7%
3. ネイティブスピーカーによる英語（外国語）での授業を実施	38.5%	75.0%	36.4%	17.6%	14.3%	36.4%	41.9%	50.0%
4. 英語（外国語）で文書を書く能力の養成を強化	12.3%	41.7%	0.0%	11.8%	28.6%	9.1%	6.5%	16.7%
5. 英語以外の外国語科目を導入	40.0%	58.3%	72.7%	29.4%	14.3%	31.8%	41.9%	58.3%
無回答・無効回答	31.5%	25.0%	9.1%	47.1%	42.9%	31.8%	35.5%	0.0%

質問 3-5：留学生への対応について（複数選択）

図表-16：留学生への対応について（全体）

〔図表-16〕

- ・どの選択肢も選択率が低く、また無回答が多いことから、留学生への対応はあまり積極的に取り組まれているとは言えない。

	全体 N=130
1. 優秀な留学生受け入れを拡大	10.8%
2. 国際バカロレア資格取得者の受け入れを拡大	1.5%
3. 受け入れ留学生の生活に対する日本人学生のメンター制度を導入	3.8%
4. 受け入れ留学生に対する大学独自の経済的補助制度を導入	22.3%
5. 専門科目を日本語以外による講義で履修できる科目を開設	1.5%
6. 日本語習得のためのコースを導入	11.5%
7. その他 具体的に	1.5%
無回答・無効回答	68.5%

質問 3-6：学生の海外経験のための制度について（複数選択）〔図表-17〕

- ・「2. 交換留学など海外への留学や研修を推進」が 4 割弱、「3. 海外留学・研修をする学生への大学独自の経済的支援制度を導入」と「7. 海外大学とのさまざまな形での連携・提携を推進」も 2 割前後の回答率で低めだった。

図表-17：学生の海外経験のための制度について（全体）

	全体 N=130	文学・語学 N=12	政経法社 N=11	医歯薬看護 N=17	理工学 N=7	教育・心理 N=44	生活 N=31	芸術・体育 N=12
1. 交換留学など海外への留学や研修を必須化	1.5%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	8.3%
2. 交換留学など海外への留学や研修を推進	36.2%	25.0%	54.5%	11.8%	71.4%	22.7%	32.3%	25.0%
3. 海外留学・研修をする学生への大学独自の経済的支援制度を導入	19.2%	41.7%	27.3%	5.9%	14.3%	6.8%	16.1%	16.7%
4. 海外の企業・官公庁等でインターンシップを経験させる取り組み	5.4%	25.0%	9.1%	5.9%	0.0%	4.5%	0.0%	0.0%
5. 海外の企業・官公庁等でインターンシップの経験を必須化	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6. 海外の企業・官公庁等でインターンシップを経験させるための経済的支援制度を導入	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7. 海外大学とのさまざまな形での連携・提携を推進	22.3%	50.0%	45.5%	5.9%	42.9%	13.6%	22.6%	25.0%
8. その他 具体的に	2.3%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	16.7%
無回答・無効回答	43.8%	33.3%	18.2%	76.5%	28.6%	52.3%	48.4%	25.0%

質問 4：H27 年度入試の実態と、公的・民間の資格試験利用について

質問 4-1：選抜方法ごとの入学者の比率（単一選択）〔図表-18〕

以下の図表の通りである。

図表-18：選抜方法ごとの入学者比率（全体）

センター利用：「センターのみ」と「センター＋一般」	一般入試 (短大独自) N=128	一般入試 (センター利用) N=130	公募推薦 入試 N=126	指定校推薦 入試 N=125	AO入試 N=122	付属校等 N=123
75%以上	0.0%	0.0%	4.6%	4.6%	0.8%	0.0%
50%～75%未満	2.3%	3.1%	6.2%	23.1%	7.7%	0.8%
25%～50%未満	14.6%	2.3%	23.8%	38.5%	23.8%	6.2%
5%～25%未満	43.8%	15.4%	40.0%	15.4%	30.8%	29.2%
5%未満(無回答含む)	39.2%	79.2%	25.4%	18.5%	36.9%	63.8%

	スポーツ 推薦入試 N=124	帰国子女 入試 N=107	外国人 留学生入試 N=102	社会人入試 N=106	その他 N=130
75%以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
50%～75%未満	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.8%
25%～50%未満	0.0%	0.0%	0.8%	0.8%	2.3%
5%～25%未満	2.3%	0.0%	3.1%	8.5%	3.1%
5%未満(無回答含む)	97.7%	100.0%	96.2%	90.8%	93.8%

質問 4-2：選抜試験ごとの評価方法について（複数選択）〔図表-19〕

- ・一般入試では、記述式・論述式などによる評価を重視。推薦入試では、面接と調査書による評価を重視。社会人入試では、面接と小論文(日本語)、調査書による評価を重視する傾向がそれぞれ見られた。

図表-19：選抜試験ごとの評価方法（全体）

	一般入試 N=122	公募推薦 N=118	指定校 推薦 N=108	AO入試 N=84	付属校等 N=61	スポーツ 推薦入試 N=24	帰国子女 入試 N=45	外国人 留学生入 N=55	社会人 入試 N=105
1. 記述式・論述式	64.8%	20.3%	7.4%	11.9%	11.5%	4.2%	13.3%	21.8%	16.2%
2. マークシート式	18.0%	8.5%	0.9%	0.0%	0.0%	0.0%	4.4%	9.1%	1.0%
3. 小論文(日本語)	32.0%	46.6%	24.1%	33.3%	21.3%	25.0%	57.8%	49.1%	62.9%
4. 小論文(外国語)	0.0%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	4.4%	3.6%	3.8%
5. 面接	54.1%	89.8%	93.5%	96.4%	83.6%	91.7%	95.6%	92.7%	95.2%
6. センター試験利用	31.1%	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7. ディスカッション・口頭試問	1.6%	5.1%	3.7%	19.0%	6.6%	4.2%	2.2%	7.3%	5.7%
8. 実技	9.8%	12.7%	7.4%	19.0%	8.2%	16.7%	4.4%	5.5%	6.7%
9. 調査書	54.9%	83.9%	83.3%	66.7%	82.0%	75.0%	55.6%	47.3%	41.0%
10. 公的・民間の資格試験活用	3.3%	8.5%	7.4%	7.1%	3.3%	4.2%	6.7%	12.7%	5.7%
11. その他 具体的に	3.3%	5.9%	6.5%	10.7%	8.2%	4.2%	2.2%	1.8%	6.7%

質問 4-3：入試で、どのような公的・民間の資格試験を利用しているか（複数選択）

a. 英語

- ・「1.英検」、「2.TOEIC/TOEIC S&W」の回答が多数を占めた。
- ・「8.TOEFL iBT」と「7.TOEFL Junior Comprehensive」も少数であるが、選択があった。

b. 英語以外

- ・「漢検」、日本語能力試験、日本留学試験、日本語検定と、日本語に関する試験が目立った。
- ・その他に、保育検定、簿記検定、情報処理検定、ワープロ実務検定などもあった。

質問 4-4：入試で公的・民間の資格試験を利用していない場合の今後の利用予定

- ・現在、入試で公的・民間資格試験を利用していない場合、今後活用予定があるとするのは 3.6%とごく少数であった。

質問 5：入学（予定）者に対する事前の学力測定実施状況について

質問 5-1：入学予定者に対し、正規の講義開始以前に、テストや資格試験によって事前の学力測定を実施しているか（単一選択）〔図表-20、21〕

- ・「1.実施している」学科はおおよそ半数の 45.4%であり、特に医歯薬看護系での実施率が高い。

図表-20：入学（予定）者に対し、正規のカリキュラムによる講義の開始以前に、テストあるいは資格試験の準用による学力の確認を実施しているか（全体）

	全体 N=130
1. 実施している	45.4%
2. 実施していないが、近年度中に実施予定	0.0%
3. 実施しておらず、予定もない	52.3%
無回答	3.8%

図表-21：入学（予定）者に対し、正規のカリキュラムによる講義の開始以前に、テストあるいは資格試験の準用による学力の確認を実施しているか（系統別）

	文学・語学 N=12	政経法社 N=11	医歯薬看護 N=17	理工学 N=7	教育・心理 N=44	生活 N=31	芸術・体育 N=12
1. 実施している	58.3%	54.5%	64.7%	85.7%	31.8%	38.7%	50.0%
2. 実施していないが、近年度中に実施予定	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
3. 実施しておらず、予定もない	41.7%	45.5%	29.4%	14.3%	65.9%	25.8%	50.0%
無回答	0.0%	0.0%	5.9%	0.0%	2.3%	3.2%	0.0%

質問 5-2：入学予定者への事前学力測定の実施の有無（質問 5-1）で、「1.実施している」「2.実施していないが、近年度に実施予定」を選択した者に対し、そのテスト内容（複数選択）〔図表-22〕

- ・「1. 自校作成のテスト」や「2. 民間作成のテスト」が多く用いられているが、大学では比較的多かった「3. 公的・民間の資格試験の準用」は、短大ではあまり多くない。

図表-22：入学（予定）者に対し、実施、あるいは実施予定のテスト（全体）

	全体 N=59
1. 自校作成のテスト	55.9%
2. 民間作成のテスト	42.4%
3. 公的・民間の資格試験の準用	15.3%
4. その他 具体的に	3.4%

質問 5-3：入学（予定）者の事前の学力測定で公的・民間の資格試験の利用している場合、どのような資格試験を利用しているか（複数選択）

a. 英語

- ・質問 4-3 と同様に、「1. 英検」「6. TOEIC/TOEIC S&W」の利用が目立つ。

b. 英語以外

- ・国語プレースメントテスト、中国語検定があった。

質問 5-4：事前の学力測定で、公的・民間の資格試験の準用をしていない者（質問 5-2）に対して、今後の利用予定（単一選択）

- ・現在、公的・民間資格試験を利用していない学科では、1 校を除き、今後の導入の予定はないようである。

質問 6：卒業後の学生の進路について〔図表-23〕

- ・学生の「75%以上」が就職している学科が 8 割を超えている。
- ・卒業生の就職比率が「75%以上」なのは、教育・心理系(95.5%)、生活系(100.0%) で特に高い。
- ・理工学系、政経法社系、文学・語学系は、学生が卒業後に就職する比率が他の系統に比べて低いが、そのかなりの部分が 4 年制大学等への進学に向かっていると推測される。ただし、理工学系の回答数は 7 と少ないので留意されたい。

図表-23：卒業後の学生の進路の比率（全体・系統別）

●就職

	全体 N=124	文学・語学 N=11	政経法社 N=10	医歯薬看護 N=16	理工学 N=7	教育・心理 N=44	生活 N=29	芸術・体育 N=11
100%～75%以上	80.6%	54.5%	50.0%	93.8%	57.1%	95.5%	100.0%	54.5%
75%未満～50%以上	9.7%	18.2%	20.0%	0.0%	14.3%	2.3%	0.0%	18.2%
50%未満～25%以上	8.1%	18.2%	30.0%	6.3%	28.6%	0.0%	0.0%	18.2%
25%未満(0%含む)	1.6%	9.1%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	9.1%

●進学(4年制大学等)

	全体 N=124	文学・語学 N=11	政経法社 N=10	医歯薬看護 N=16	理工学 N=7	教育・心理 N=44	生活 N=29	芸術・体育 N=11
100%～75%以上	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
75%未満～50%以上	1.6%	0.0%	0.0%	0.0%	28.6%	0.0%	0.0%	0.0%
50%未満～25%以上	8.1%	18.2%	30.0%	0.0%	14.3%	0.0%	0.0%	9.1%
25%未満(0%含む)	90.3%	81.8%	70.0%	100.0%	57.1%	100.0%	100.0%	90.9%

●その他

	全体 N=124	文学・語学 N=11	政経法社 N=10	医歯薬看護 N=16	理工学 N=7	教育・心理 N=44	生活 N=29	芸術・体育 N=11
100%～75%以上	0.8%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	0.0%
75%未満～50%以上	2.4%	9.1%	0.0%	6.3%	0.0%	0.0%	0.0%	9.1%
50%未満～25%以上	4.8%	9.1%	10.0%	0.0%	0.0%	2.3%	0.0%	27.3%

「高等教育機関が求める人材像」に関する実態調査

報 告 書

平成 28 年 8 月発行

一般財団法人 日本生涯学習総合研究所

〒105-0003 東京都港区西新橋 1-20-10

Tel. 03-3539-3785 / Fax 03-3539-3787